Panasonic

施工説明書

パワーステーション（5.5 kW）（屋側用）

品番 LJP155K

このたびはパナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

■この施工説明書を必ずお読みのうえ、正しく安全に施工してください。

■据付工事の前に**「安全上のご注意」および「施工上のご注意」（2〜3ページ）を必ずお読みください。**

■配線工事は、必ず「電気工事士」の資格のある方が「電気設備の技術基準」および「内線規程」に基づいて施工してください。

■この施工説明書は取扱説明書とともにお客様で保管していただくようにしてください。

もくじ

はじめに	安全上のご注意	2
	施工上のご注意	3
	引き渡しまでの手順	3
	システム図と構成部材	4
	各部の名前とはたらき	8
	事前準備	11
工事	取付工事	13
	配線工事	17
	実体配線	22
設定・確認	自立運転の確認	26
	整定値の確認	30
	整定値の設定	31
	連系運転の確認	33
	メンテナンス機能	41
	トラブル確認	47
	仕様	裏表紙

安全上のご注意　必ずお守りください

●設置工事を始める前に必ずこの施工説明書をお読みになり正しく安全に取り付けてください。
●電気工事は電気工事士の資格を保有した人が行ってください。
●万一、注意事項に従わず使用された場合の事故や故障などについては、責任を負いかねます。
●工事中に異常を発見した場合は、速やかに工事を中止し、販売会社または弊社にご連絡ください。
●取り付け、配線に関して必ず付属品および指定部材を使用してください。
●施工説明書に記載されてない設置や加工は絶対に行わないでください。

■誤った施工をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

⚠警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
⚠注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。

⃠	してはいけない内容です。
❗	実行しなければならない内容です。

⚠警告

⃠ 禁止	**●分解・改造しない** 火災・感電・漏電・故障の原因となります。	❗ 必ず守る	**●取付・配線工事の際、次の注意事項を必ず守る** 感電・故障のおそれがあります。 ・配線工事が完了するまで、パワーステーション内にある太陽電池モジュールの全ての開閉器および自立出力用漏電ブレーカ、住宅分電盤の連系ブレーカ、蓄電池ユニットの開閉器をすべて「切」にする ・作業前には必ず電圧がないことを確認する ・足場がぬれた状態や、手・身体がぬれた状態で作業は絶対にしない ・配線の被覆部を傷つけない
	●湿気の多い所・湯気・水蒸気・冷気が直接あたる所・油煙の多い所・ほこりの多い所に設置しない 火災・感電・漏電・故障の原因となります。		**●D種接地工事を確実に行う** アースが不完全な場合、感電のおそれがあります。
❗ 必ず守る	**●電気工事は電気設備技術基準や内線規程および労働安全衛生規則など関連法規に従って正しく安全に行う** 火災・感電・けがのおそれがあります。		**●太陽電池モジュールと蓄電池ユニットの[+]ケーブル(黒色)と[−]ケーブル（白色)はショートさせない** ショートさせると発火・感電のおそれがあります。
	●取り付け・電気配線工事作業中には防護手袋を着用し、絶縁工具を使用する 感電・けが・故障のおそれがあります。		

⚠注意

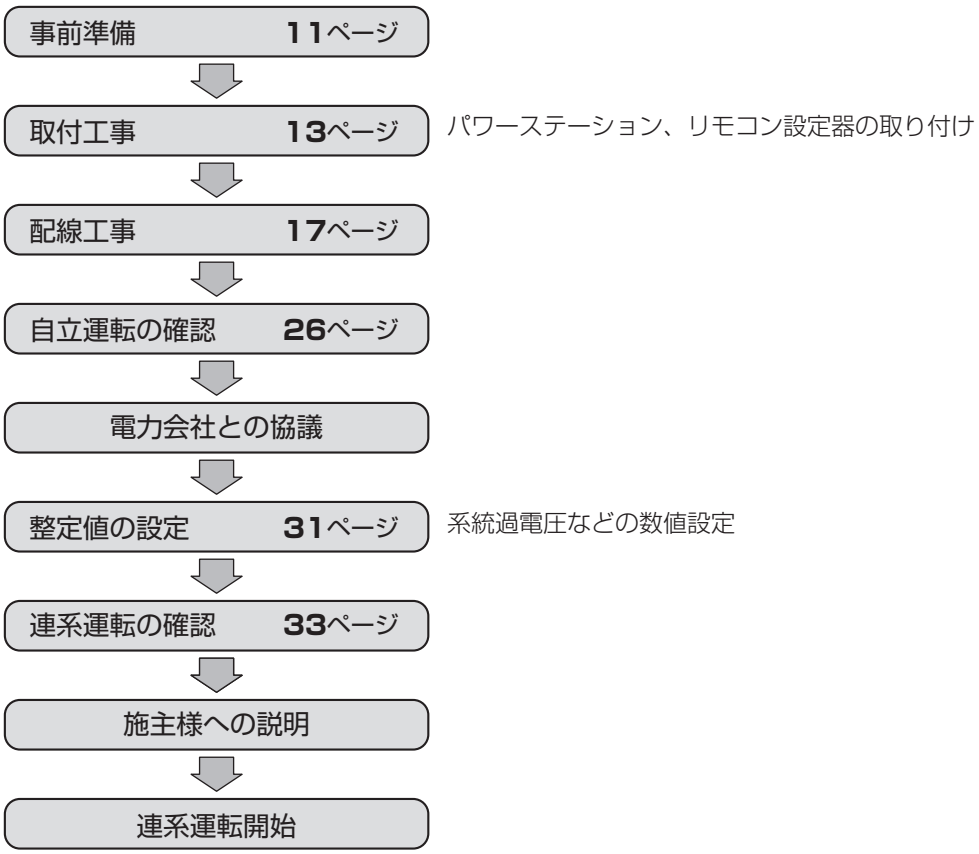
⃠ 禁止	**●パワーステーション本体にホールソーや電気ドリルで穴を開けない** 基板に削りカスが付着し、火災・故障の原因となります。	❗ 必ず守る	**●配線は推奨電線種(5ページ)を用い、端子台への取り付けは、推奨の圧着端子を用い確実に締め付ける** 不備があると火災・故障の原因となります。
	●太陽電池モジュール・蓄電池ユニットからの直流配線と、系統からの交流配線を間違えない 誤配線した場合、機器が破損します。		**●配線孔は本体内部に小動物が侵入しないようにパテなどで防ぐ** 火災・故障の原因となります。
❗ 必ず守る	**●取り付けは、製品重量に十分耐える所に確実に行う 必要に応じて壁補強を行う 2人以上で作業する** 不備があると転倒による故障や事故の原因となります。		**●パワーステーションの放熱孔をふさがない場所に取り付ける** 放熱が悪くなり火災の原因となります。
			●施工上のご注意（3ページ）は必ず守る 不備があると火災や事故の原因となります。

施工上のご注意

次のような場所への設置および接続は行わないでください。

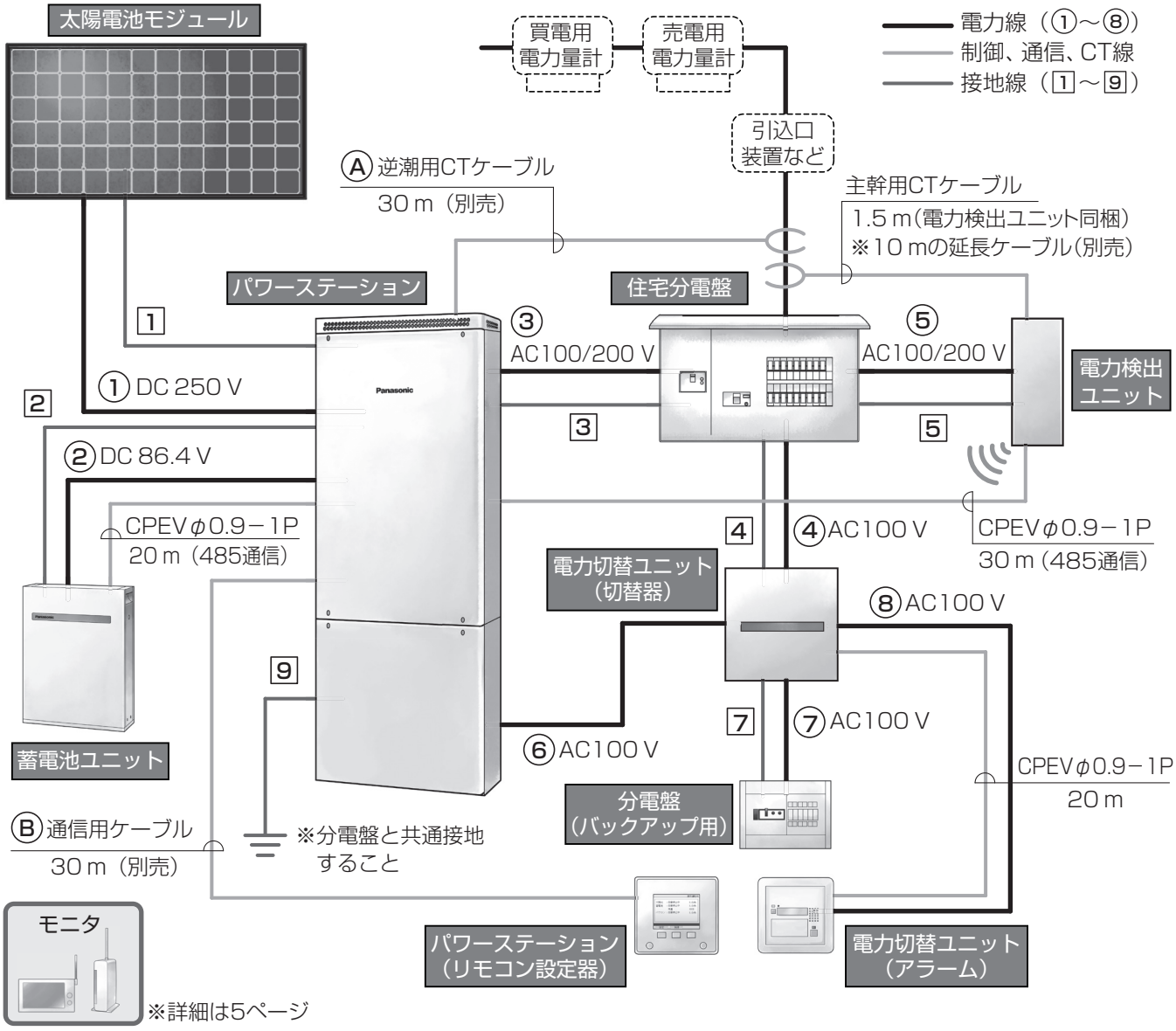
- ●当社創蓄連携システム以外への接続
- ●商用電源が100 Aを越える場所
- ●塩害地域（海岸より1000 m以内の地域）
- ●放熱孔が積雪で閉塞したり、天板に積雪する場所（積雪地域に据え付ける場合は、屋根・囲いなどを設けてください。）
- ●周囲温度が−20 ℃以下あるいは40 ℃以上の場所（直射日光の当たる場所は避けてください。）
- ●常時湿度の高い場所
- ●指定の取付スペースを確保できない場所（11ページ「設置場所」を参照）
- ●過度の水蒸気・油蒸気・煙・塵埃・塩分・腐食性物質・爆発性／可燃性ガス・化学薬品・火気にさらされる場所およびさらされるおそれのある場所
- ●標高が1000 mを超える場所
- ●温度変化の激しい場所（結露が発生する場所）
- ●騒音について厳しい制約を受ける場所（45 dB以下）
- ●振動または衝撃を受ける場所
- ●コンクリート床の基礎工事（アンカーボルト固定）ができない場所
- ●外壁に必要な配線開孔面積が取れない場所（パワーステーションへ配線が集中します。）

引き渡しまでの手順



システム図と構成部材

システム図



※パワーステーションとリモコン設定器以外は別売です。

※ Ⓐ Ⓑはパワーステーション専用別売部材としてパワーステーション専用ケーブルセットLJP7130が必要です。

※ECOマネシステムへの接続はできません。

※住宅分電盤にパワーステーションを1次送り連系で接続する場合、電気温水器・IH・蓄熱暖房器を併用するときは Uオーダー対応となります。

※増設パワーコンディショナをつける場合は、増設パワーコンディショナを住宅分電盤に1次送り連系で接続し、パワーステーションを住宅分電盤に2次送り連系で接続しないでください。

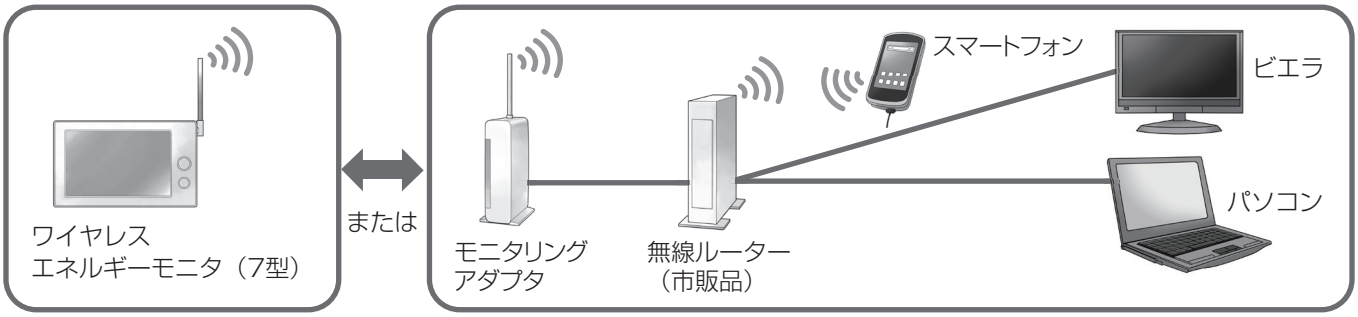
接続組み合わせ例	パワーステーション1次送り	パワーステーション2次送り
増設パワーコンディショナ1次送り	○	×
増設パワーコンディショナ2次送り	○	○

※住宅分電盤の分岐ブレーカ（30 A）から電力切替ユニットへ配線を行ってください。
住宅分電盤には電力切替ユニットへ配線する分岐ブレーカ（30 A）が必要です。

※AiSEGとAiSEG用エネルギー計測ユニットをご利用いただければ、バックアップ用分電盤の使用電力計測も行うことができます。施工方法などの詳細は、各々の施工説明書をご参照ください。

「ワイヤレスエネルギーモニタ（7型）」（別売）もしくは、ビエラ（デジタルテレビ）やスマートフォンなどでモニタリング可能な「モニタリングアダプタ」（別売）でモニタリングや設定変更が可能です。操作方法についてはそれぞれの取扱説明書をご覧ください。

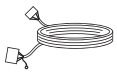
※ワイヤレスエネルギーモニタ（7型）とモニタリングアダプタの同時使用はできません。



■付属部品

部品名	個数	部品名	個数
・取扱説明書　・保証書 ・施工説明書（本紙）　・検査成績書 ・かんたんガイド　・仕様補足書 ・施工チェックシート　・保証申込書類 （当社太陽光登録施工店様に記入いただく用紙です）	各1	ブレーカOFFシール （シール記載内容を参照し住宅分電盤に貼付ください）	1
		リモコン設定器 （取付金具付き）	1
振れ止め金具	2	リモコン設定器取付金具固定ねじ　M4×16	2
		ベース	1
振れ止め金具固定六角ボルト M6×15	2	ベース固定六角ボルト M8×20	4
逆潮用CT	2		

■専用別売部材（パワーステーション専用ケーブルセット：LJP7130 ）

部品名	個数	部品名	個数
リモコン設定器 通信用ケーブル30m 	1	逆潮用CTケーブル30m	1

■電力線について

電力線	配電方式	推奨電線種×最大電線長	推奨圧着端子(ニチフ製)
①	DC	太陽電池専用ケーブル　VB80103TP（20 m）※1	R3.5−5
②	DC	CV　2心　5.5 mm²×15 m、8 mm²×20 m	R5.5−5、R8−5
③	1φ3 W	CV　3心　5.5 mm²×20 m、8 mm²×30 m	R5.5−5、R8−5
④	1φ2 W	VV　2心　5.5 mm²×5 m、8 mm²×8 m	R5.5−5、R8−5
⑤	1φ3 W	VV　3心　φ1.6×1.5 m ※2	R2−5
⑥	1φ2 W	CV　2心　5.5 mm²×15 m、8 mm²×25 m	R5.5−5、R8−5
⑦	1φ2 W	VV　2心　5.5 mm²×3 m、8 mm²×5 m	R5.5−5、R8−5
⑧	1φ2 W	VV　2心　φ1.6×20 m	R2−5

※1　20 mを超える場合は、30 m：VB8CN30EKT　40 m：VB8CN40EKT　をご使用ください。

※2　電力検出ユニットの施工説明書を参照し、選定ください。

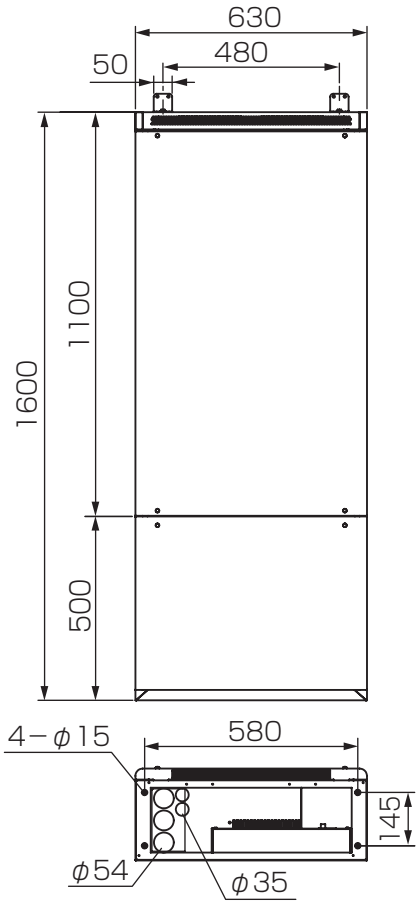
■接地線ついて

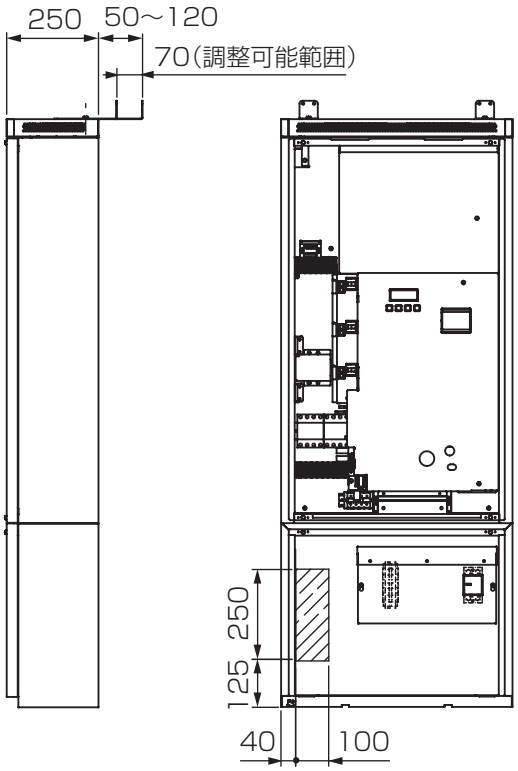
接地線	推奨電線種	推奨圧着端子(ニチフ製)	備考
1	IV　1心　φ2.6（5.5 mm²）	R5.5−5	当社太陽電池モジュールの仕様に合わせてください。
2	IV　1心　φ1.6（2 mm²）	R2−5	
3	IV　1心　φ2.6（5.5 mm²）	R5.5−5	容量100 Aまで
4	IV　1心　φ1.6（2 mm²）	R2−5	
5			
7			
9	IV　1心　φ2.6（5.5 mm²）	R5.5−8	容量100 Aまで

外形図

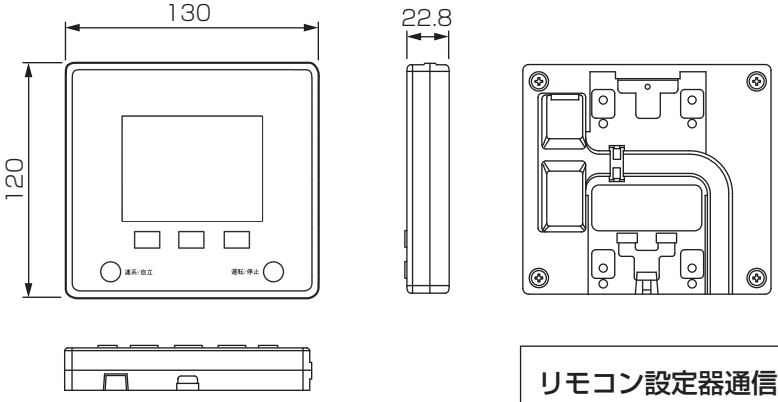
[寸法単位：mm]

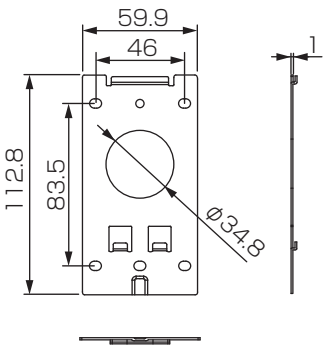
■パワーステーション



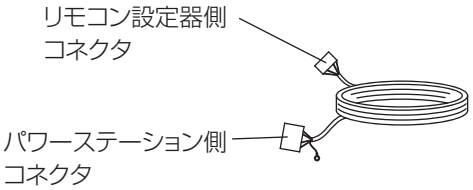


■リモコン設定器

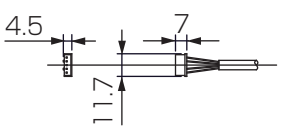




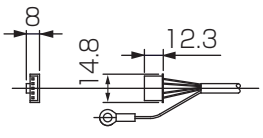
リモコン設定器通信用ケーブル（長さ30 m）
（別売パワーステーション専用ケーブルセット品）



●リモコン設定器側コネクタ

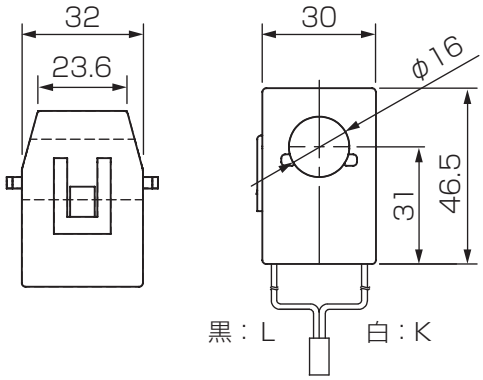


●パワーステーション側コネクタ



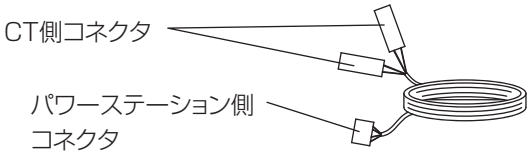
（アース用）

■逆潮用CT

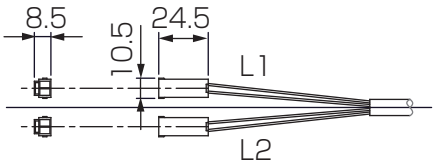


※電線サイズ38 mm² 以下

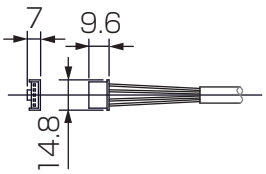
逆潮用CTケーブル（長さ30 m）
（別売パワーステーション専用ケーブルセット品）



●CT側コネクタ

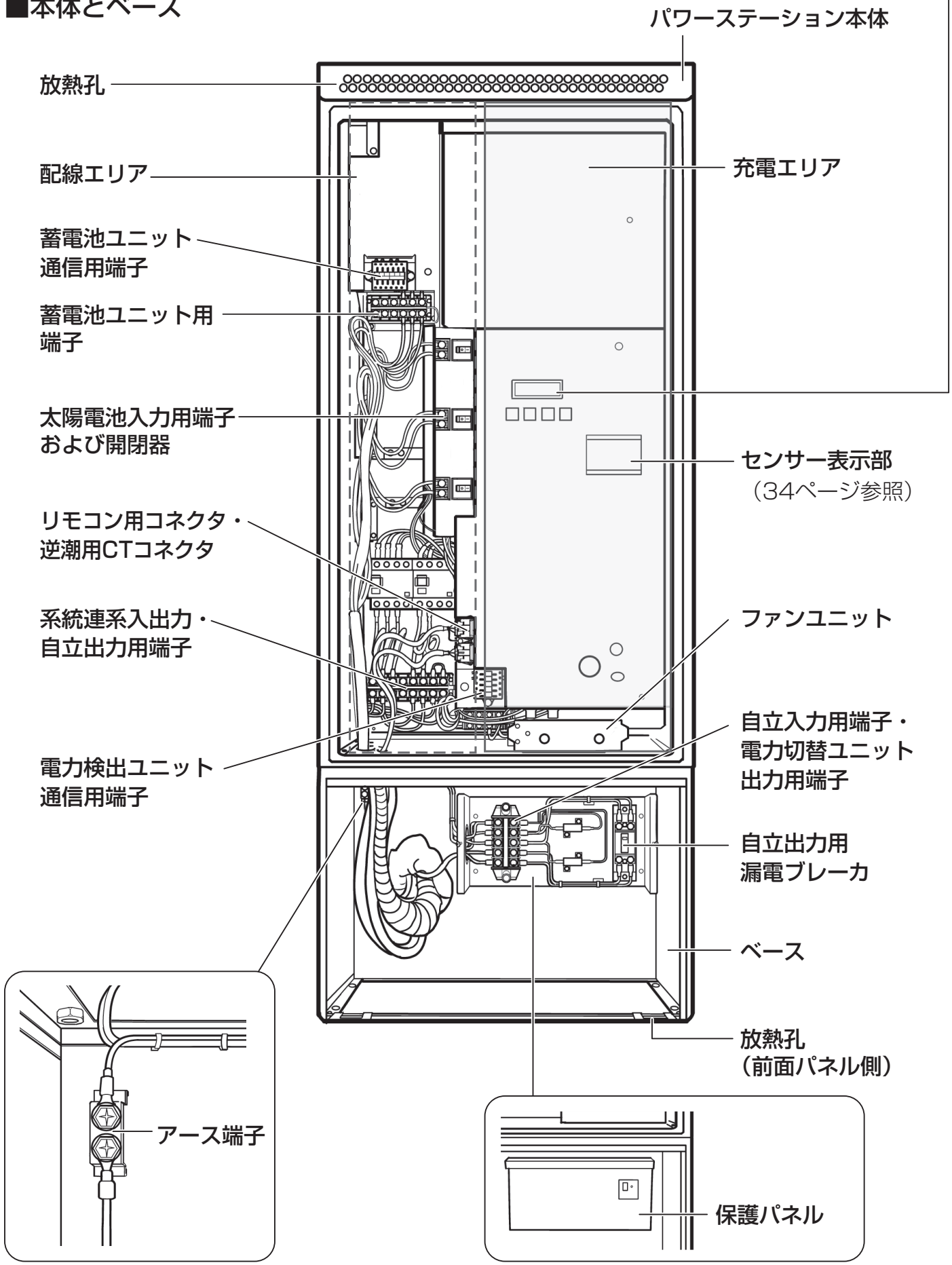


●パワーステーション側コネクタ

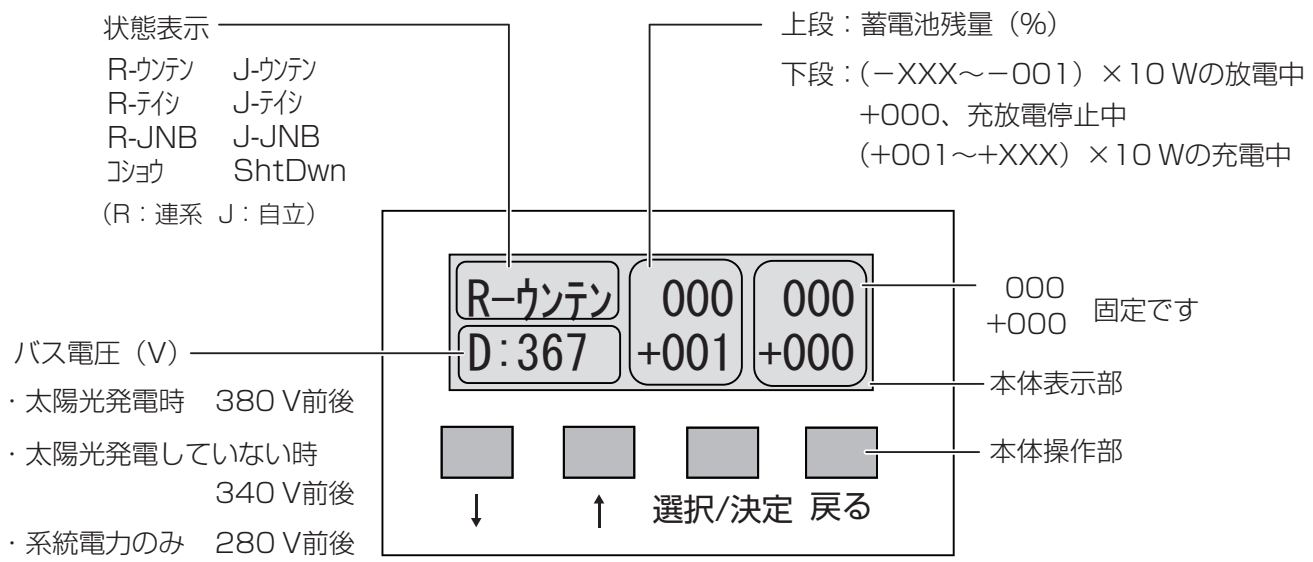


各部の名前とはたらき

■本体とベース



本体液晶表示部・操作部



●画面遷移

階層 1	階層 2	階層 3	階層 4	内容
トップ	運転中に、［戻る］長押しで運転停止。停止中に［戻る］長押しでシャットダウン。			
	0. サービスマンモード	1. テイカクヨウリョウセッテイ	BAT1	ON／OFF
			BAT2	使用しません。
		2. セキサンデンリョクリョウ	ハツデン	
			ホウデン	
			ジュウデン	
		3. ドウサモードセンタク	モードF	
			モードS	
			モードM	
		4. ウンテンパラメータセッテイ	TOD-A	夜時間開始時刻設定
			TOD-B	夜時間終了時刻設定
			TOD-C	昼時間開始時刻設定
			SOC-A	使用しません。
		5. キノウマスクセッテイ	マスク 01	
			･･･	
			マスク 06	
		6. エラーリレキヒョウジ	エラー 01	
			･･･	
			エラー 64	
		7. ソフトVer.ヒョウジ		
		8. キキIDヒョウジ		
		9. ジコクセッテイ		
		10. デンアツヨクセイリレキ	Vリレキ 01	
			･･･	
			Vリレキ 32	
		11. オンドヨクセイリレキ	Tリレキ 01	
			･･･	
			Tリレキ 32	
		12. ショキカ		出荷設定状態に戻す

■リモコン設定器

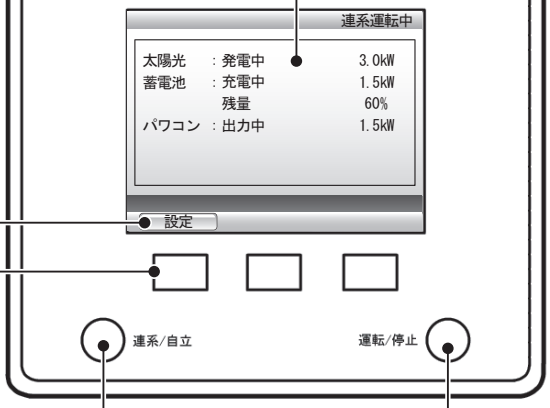
ボタン名表示エリア

下部の操作ボタンで実行できる機能を表示します。
（画面によって表示が変わります）
下部の操作ボタンを押して実行してください。
（画面を押しても動作しません）

（例）「決定」を選ぶならその下の
操作ボタンを押します。

ディスプレイ

パワーステーションの運転状態を
表示します。



操作ボタン

ボタン名表示エリアに表示されている機能を実施します。
（ディスプレイが消えているときにいずれかの操作ボタン
を押すとトップ画面になります）

連系・自立ボタン

パワーステーションの運転状態(連系運転／自立運転)の
切り換えをします。

ランプの見かた

緑点灯：連系運転中	消灯：連系手動停止中
赤点灯：自立運転中	自立手動停止中
赤点滅：自動停止中	連系準備中
	自立準備中

運転・停止ボタン

停電時に日射および蓄電池がない
（残量ゼロ／接続なし／異常時）
ときは操作が無効になります。

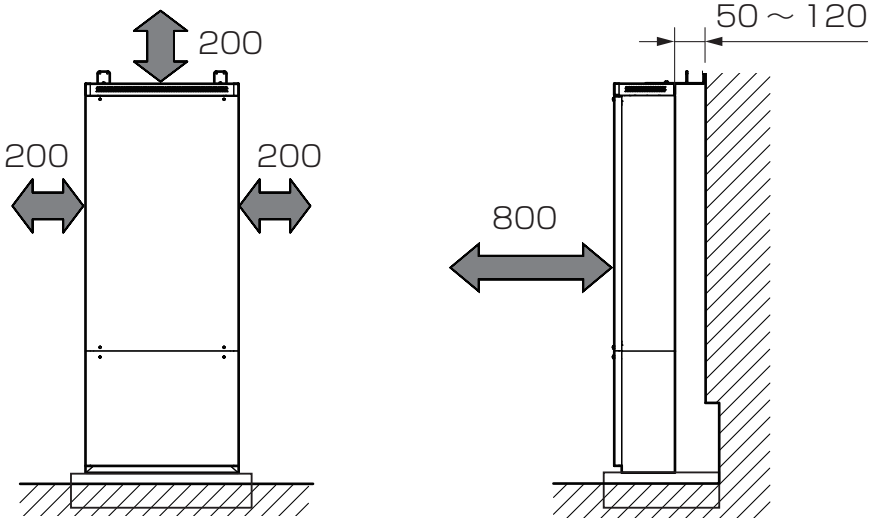
画面遷移			操作ボタン		
階層 1	階層 2	階層 3	左	中	右
トップ			設定		
	設定メニュー		戻る		値変更
		画面の明るさ設定	戻る	値変更	決定
	エラー表示		戻る		
	サービスマンモード		戻る	↓	変更
		整定値	戻る	値変更	決定
		項目選択	戻る		

事前準備

[寸法単位：mm]

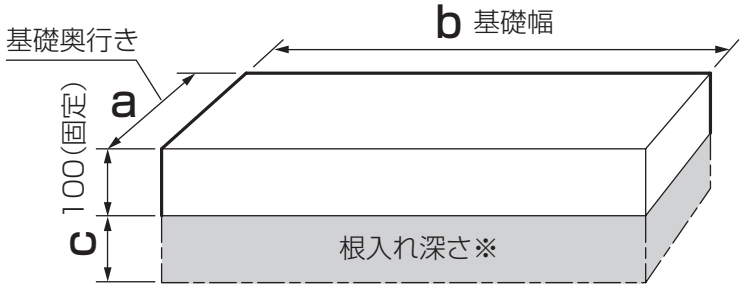
設置場所

右記スペースを空けてください。
※屋側設置専用です。



基礎工事

■基礎サイズ条件

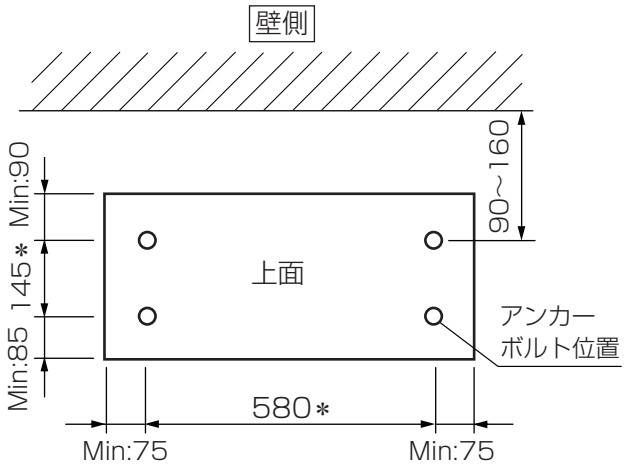


※根入れ深さは基礎サイズによって異なります。
下記表をご参照ください。

C 基礎サイズごとの基礎根入れ深さ（mm）

		a 基礎奥行き		
		320	400	500
b 基礎幅	730	500	450	350
	800	500	400	300
	900	450	350	300
	1000	400	350	250

■アンカーボルト施工寸法

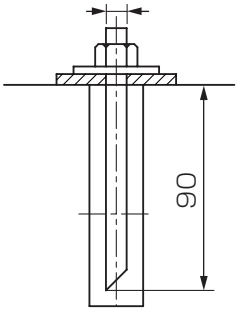


＊の寸法は固定です。

■アンカーボルト

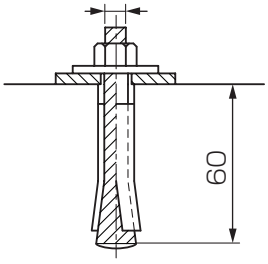
あと施工接着系アンカー

ボルト径：M12
埋込長さ：90



あと施工金属拡張アンカー（おねじ形）

ボルト径：M12
埋込長さ：60



※あと施工金属拡張アンカー（めねじ形）は不可となっております。

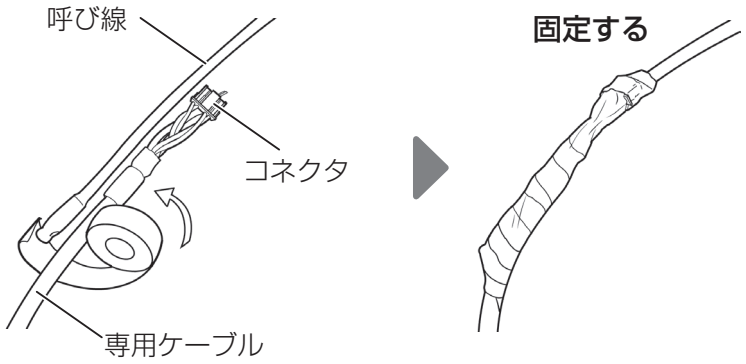
配管工事

●ベースと壁間にはベースへの配線孔に合わせ、配管工事を実施してください。
●リモコン設定器通信用ケーブルと、逆潮用CTケーブルは別売されていますが、事前配線できない場合は、事前に配管工事などの配慮が必要となります。（ケーブル配管サイズ：PF管呼び径22以上）
PF管の曲げ半径（内側半径）は管内径の６倍以上で曲げてください。

ご注意

●リモコン設定器通信用ケーブルと、逆潮用CTケーブルを配管に通す際は、コネクタの形状を確認し、配管を通す向きにご注意し、コネクタ接続部に負荷がかからないようにケーブルの被覆部・コネクタと呼び線を固定して引き抜いてください。

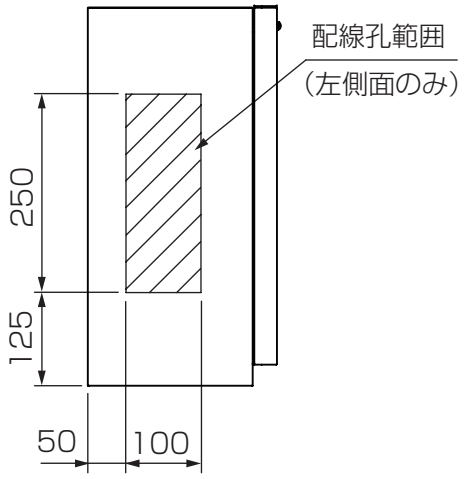
●配線後、すぐに取付工事を行わない場合は、コネクタが風雨にさらされないように保護してください。

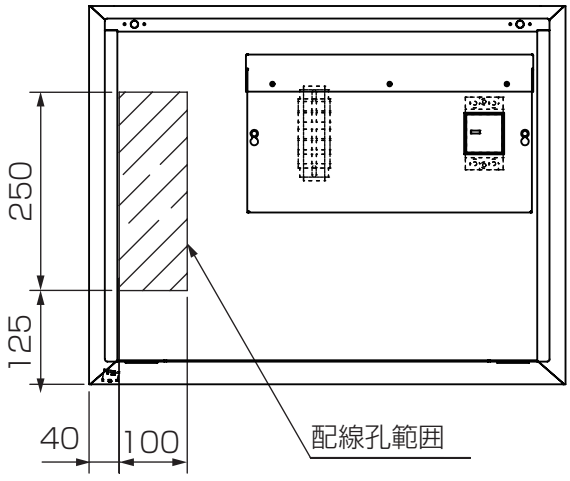


配線開孔

配線引き込み口に合わせて、ベースの開孔加工を行います。
ベースの開孔範囲は下図のとおりです。
開孔加工は取り付け前に行ってください。

ご注意 孔開けの時にバリに対する面取り加工を行ってください。
また、切断面はさび止めペイントなどで補修してください。





ブレーカ

●パワーステーション内にある太陽電池入力の全ての開閉器、および自立出力用漏電ブレーカ、住宅分電盤の連系ブレーカ、蓄電池ユニット内の開閉器を OFF にしてください。
●電力切替ユニットの切替スイッチを商用側にしてください。

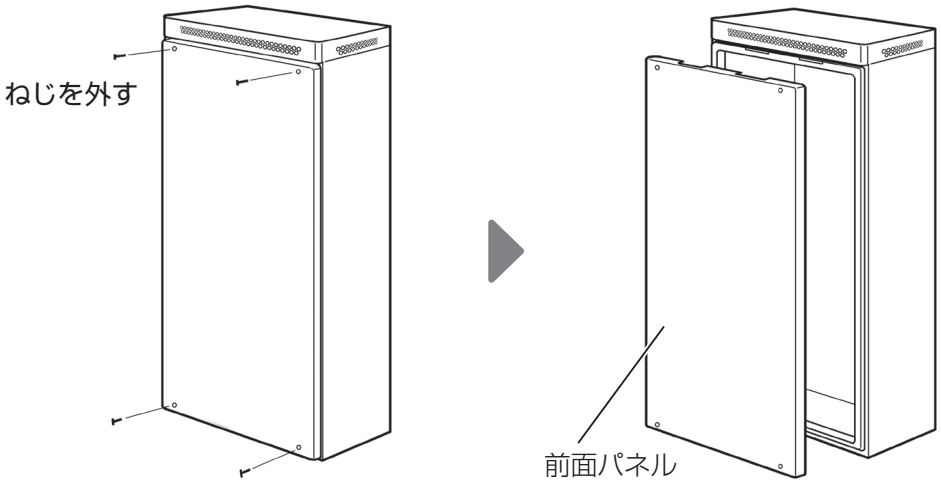
取付工事

[寸法単位：mm]

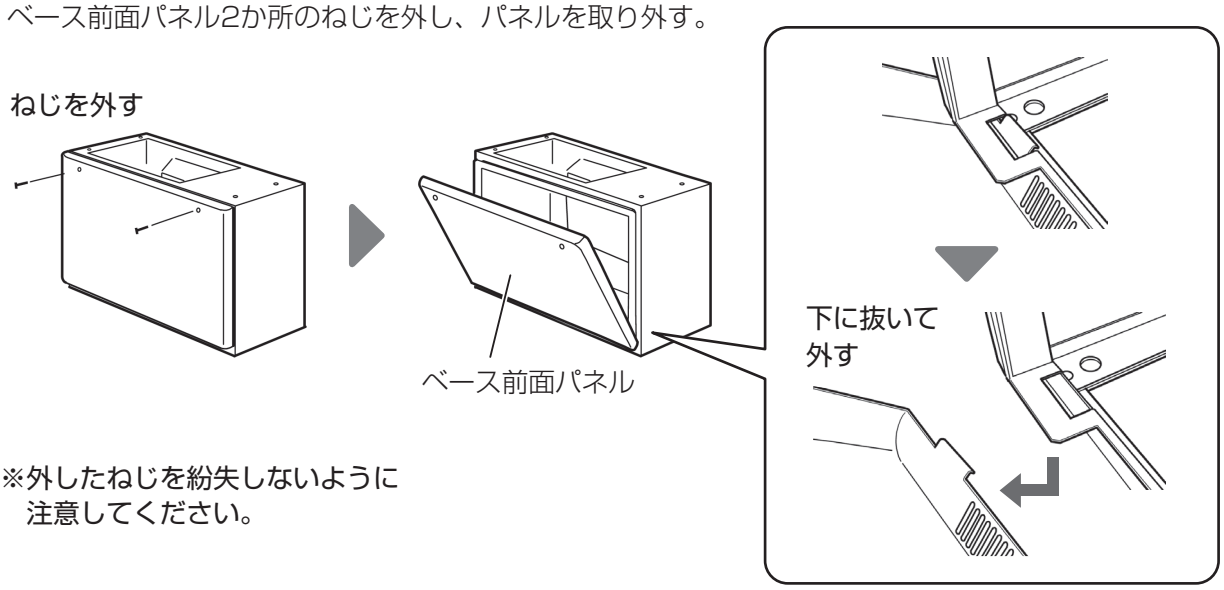
パワーステーションの取り付け

1 本体とベースの前面パネルを取り外す

① 本体前面パネル4か所のねじを外し、パネルを取り外す。

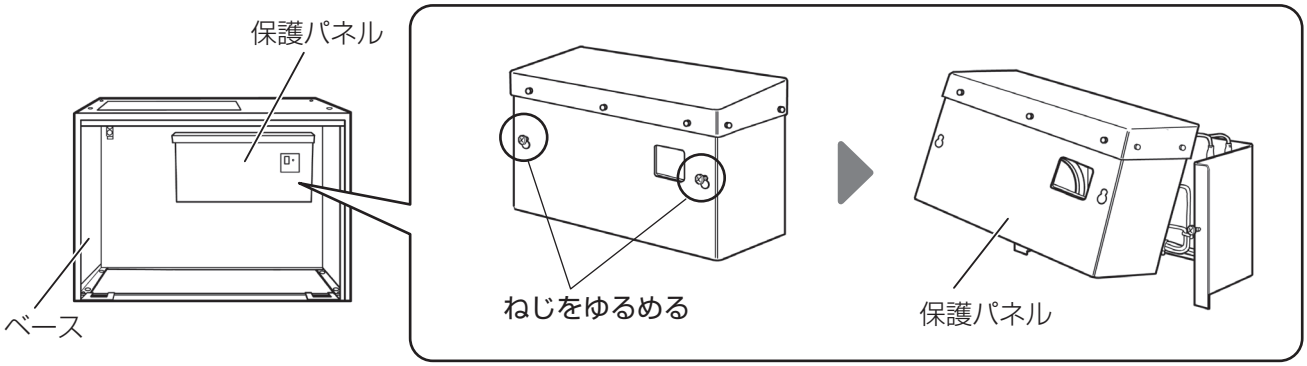


② ベース前面パネル2か所のねじを外し、パネルを取り外す。



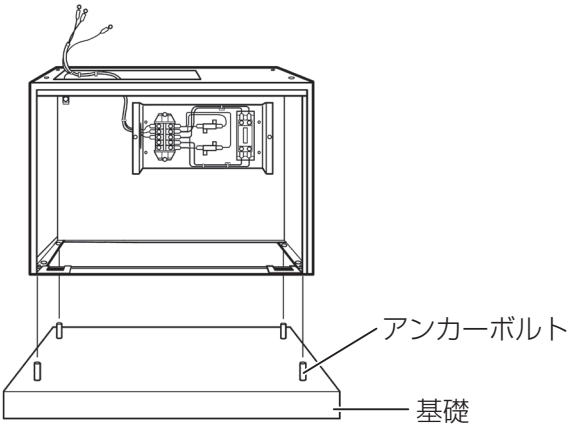
※外したねじを紛失しないように
注意してください。

③ ベース内部の保護パネル 2 か所のねじをゆるめ、パネルを取り外す。



2 ベースをアンカーボルトに取り付ける

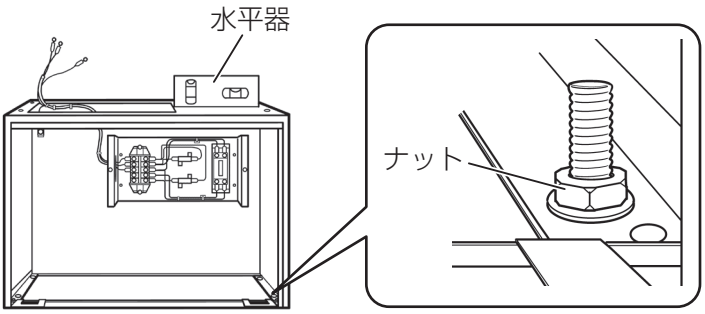
① ベースの取り付け穴にアンカーボルトが通るよう設置する。



② 水平器を用いて、前後左右が水平になるよう調節する。

③ アンカーボルトにナットを取り付ける。

締め付けトルク：40 ～ 50 N・m

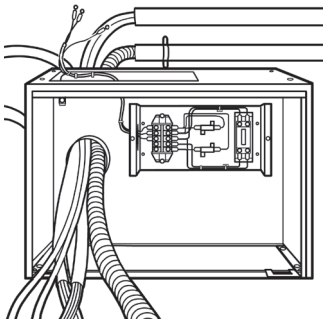


3 電線をベースに引き込む

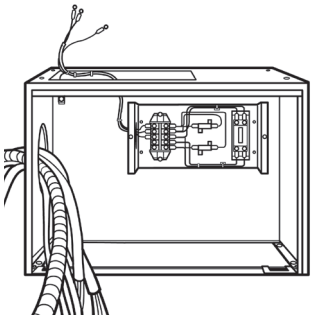
① 電線引込み位置を確認する。

配線孔は下記のいずれかの位置に開けてください。

●ベースの背面から配線

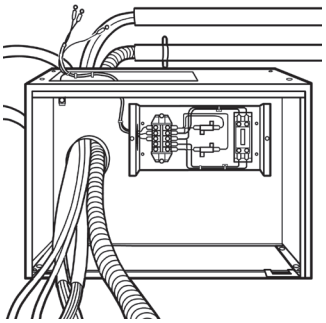


●ベースの側面から配線

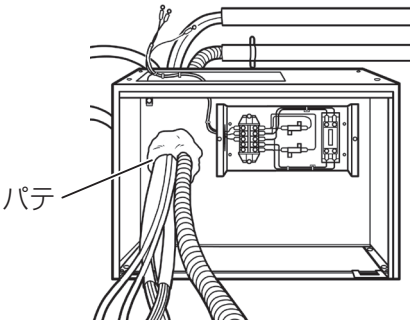


② 各電線を配線孔よりベースに引き込む。

※図はベースの背面から配線する場合



③ 配線孔、すき間をパテで埋める。

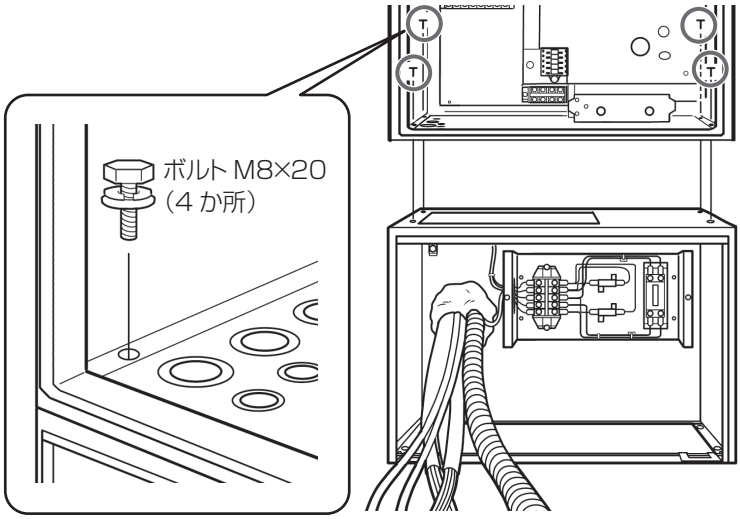


4 本体をベースに設置する

① 本体をベースの上に設置する。

② 付属の本体固定ボルトで本体とベースを４か所連結する。

締め付けトルク：８～ 13 N・m

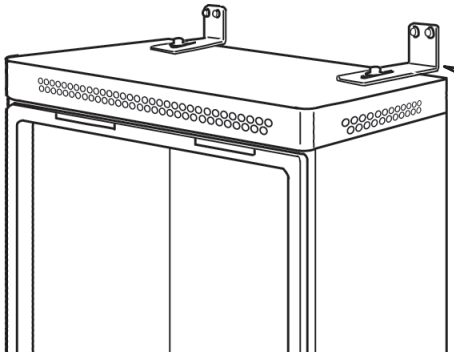


5 本体を壁面に固定する

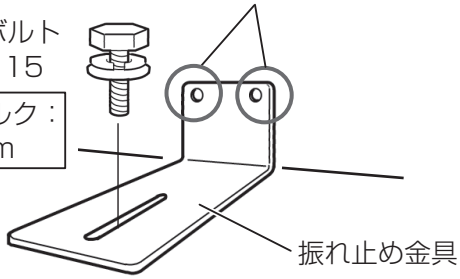
① 本体に振れ止め金具を付属の六角ボルトで仮止めする。

② 振れ止め金具の位置を前後左右が水平になるように調整しながら、壁面に固定する。

③ 振れ止め金具を六角ボルトで本固定する。



壁面側は、壁に合わせて固定ボルトを用意してください。（穴径：φ 6.5）

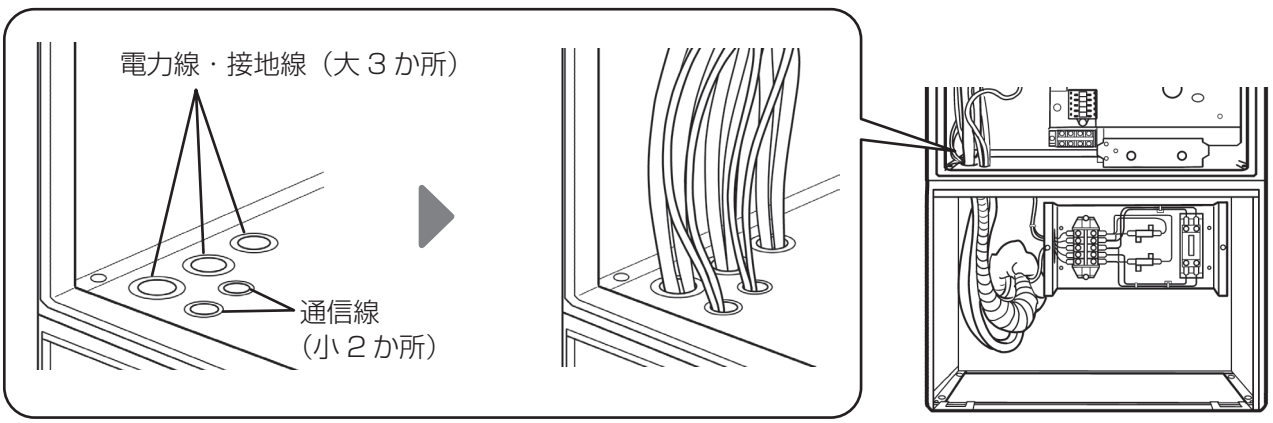


●ボルトの引き抜き強度120 N以上
（引き抜き強度が480 N以上に耐える壁に固定してください。）

※壁面にボルトを固定するときは、壁面内の配線などを傷つけないようにご注意ください。
また、壁中にラス網がある場合は、電気的に絶縁された状態になるようにしてください。

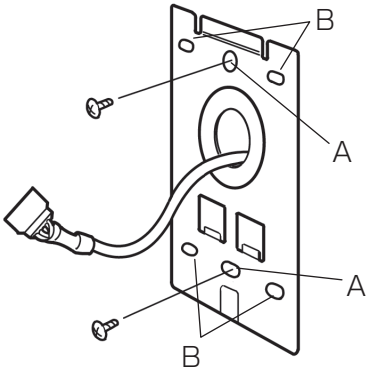
6 電線をベースより本体に引き込む

各電線を配線孔より本体に引き込みます。



リモコン設定器の取り付け

1 取付金具を壁面に取り付ける



●通信ケーブルの両端にあるコネクタの大きさは異なっており、小さい方をリモコン設定器に接続しますので、サイズを確認して引き込んでください。

●取付金具の「UP」が上を向くようにねじで固定してください。

●壁面に取り付ける場合は、リモコン設定器に同梱されているねじ（M4×16）を使用してください。

ご注意 **●取付金具と壁面の間にケーブルがかみ込まないよう、注意してください。**

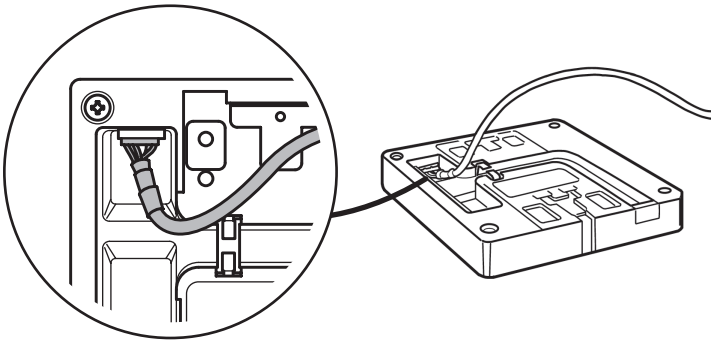
●取付金具をねじで固定する際は、ねじを締めすぎないよう注意してください。
取付金具が変形し、リモコン設定器の取り付けができなくなります。
（特に、電動ドライバーを使用される場合はご注意ください。）

スイッチボックスに取り付ける場合

1個口用スイッチボックスに取り付けるときは、Aのねじ穴を、
2個口用スイッチボックスに取り付けるときは、Bのねじ穴を使用し、
スイッチボックスに付属しているねじで固定してください。

2 通信ケーブルをリモコン設定器と接続する

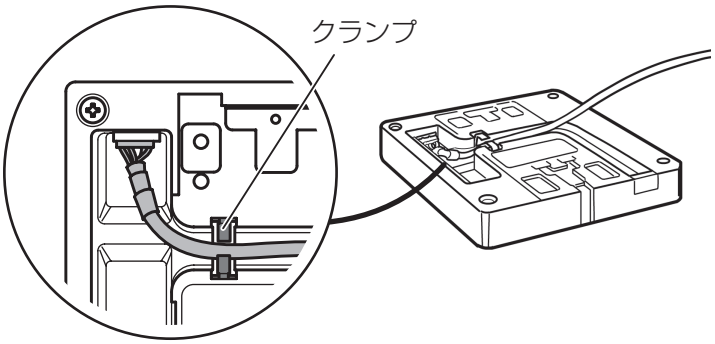
① リモコン設定器本体裏側のコネクタに通信ケーブルのコネクタを接続する。



ご注意

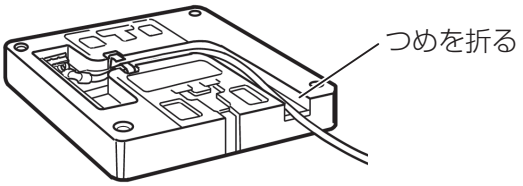
コネクタは確実に奥まで差し込んでください。

② 差し込んだことを確認後、ケーブルをクランプに挟み込んで固定する。



露出配線する場合

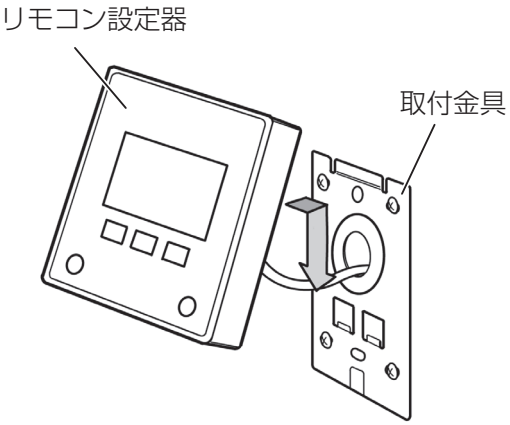
線を通す側のつめを折って配線する。



3 リモコン設定器を金具に取り付ける

●取付金具と本体の間にケーブルを挟まないように注意してください。

●本体を金具に押し当て、下にスライドします。取付金具のつめが本体にかかっていることを確認してください。



配線工事

⚠警告

必ず守る

●電気配線工事作業中には防護手袋を着用し、絶縁工具を使用する

感電・けが・故障のおそれがあります。

●配線工事の際、次の注意事項を必ず守る

感電・故障のおそれがあります。

・配線工事が完了するまで、パワーステーション内にある太陽電池モジュールの全ての開閉器、および自立出力用漏電ブレーカ、住宅分電盤の連系ブレーカ、蓄電池ユニットの開閉器をすべて「切」にする

・配線の被覆部を傷つけない

⚠注意

必ず守る

●配線は推奨電線種(5ページ)を用い、端子台への取り付けは、推奨の圧着端子を用い確実に締め付ける

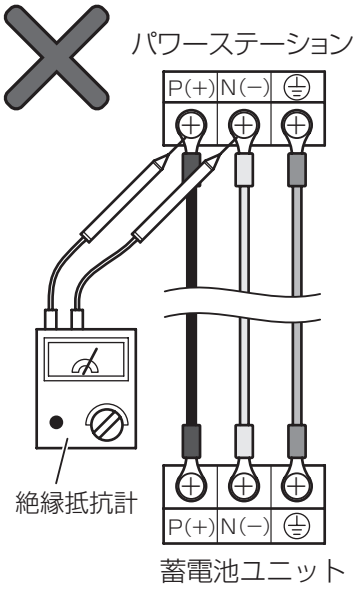
不備があると火災・故障の原因となります。

■絶縁抵抗を測定する場合

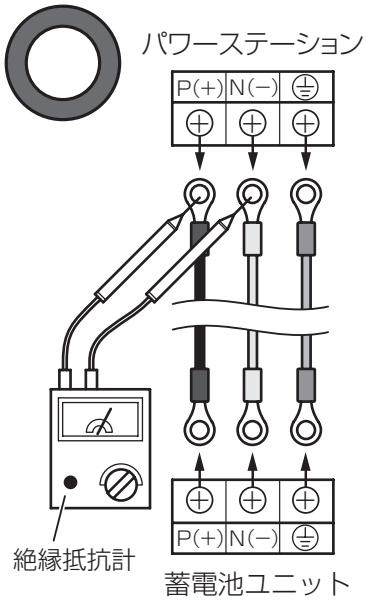
絶縁抵抗は配線している状態で測定を行うと、内部回路が破壊されてしまいます。製品端子への絶縁抵抗試験はおやめください。

絶縁抵抗を測定される場合は、必ず端子から電線を外して測定してください。蓄電池、太陽電池モジュールの絶縁抵抗を測定される場合も、電線を外して測定を行ってください。

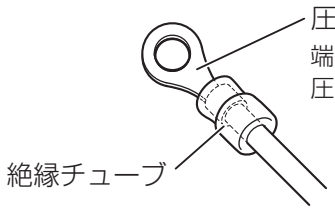
端子間の測定禁止



線間で測定すること



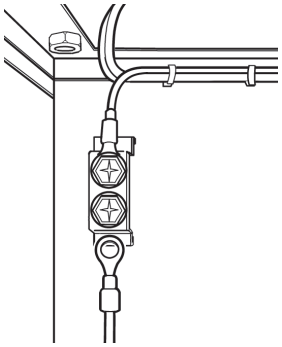
1 電線に圧着端子と絶縁チューブを取り付ける



2 アースを接続する

締め付けトルク：8 ～ 13 N・m

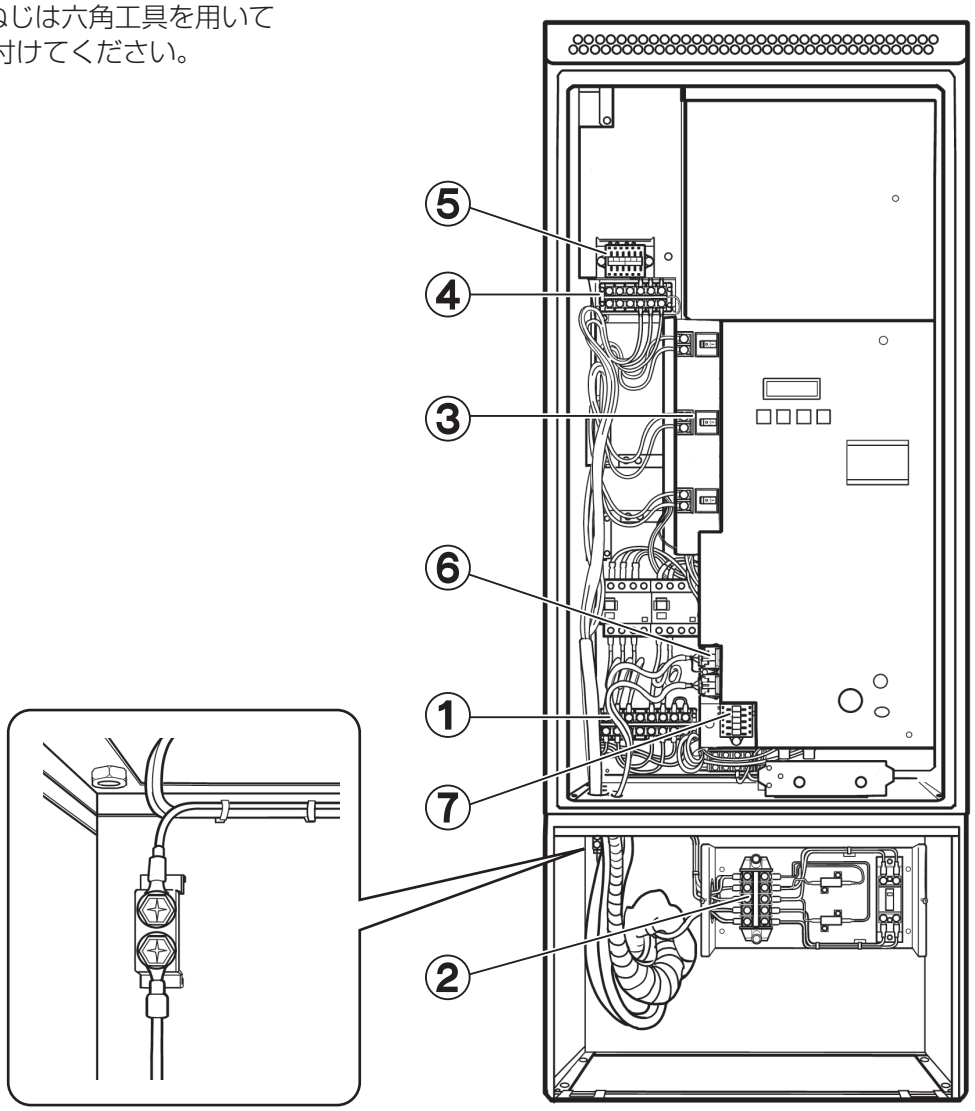
本機は確実にアース接続できるようにベースに接地（アース）端子を付帯しています。
感電防止のため、必ずアースを確実に取り付けてください。
分電盤のアース接地をパワーステーションを介して行ってください。
接地工事は電気設備技術基準に基づき、必ず電気工事士による D 種接地相当の工事を行ってください。



3 パワーステーションの端子台とコネクタに線を接続する

締め付けトルク：M8ねじ…8～13 N・m　M5ねじ…2 N・m ～ 2.5 N・m
通信線のストリップゲージ：10 mm

※M8ねじは六角工具を用いて
締め付けてください。



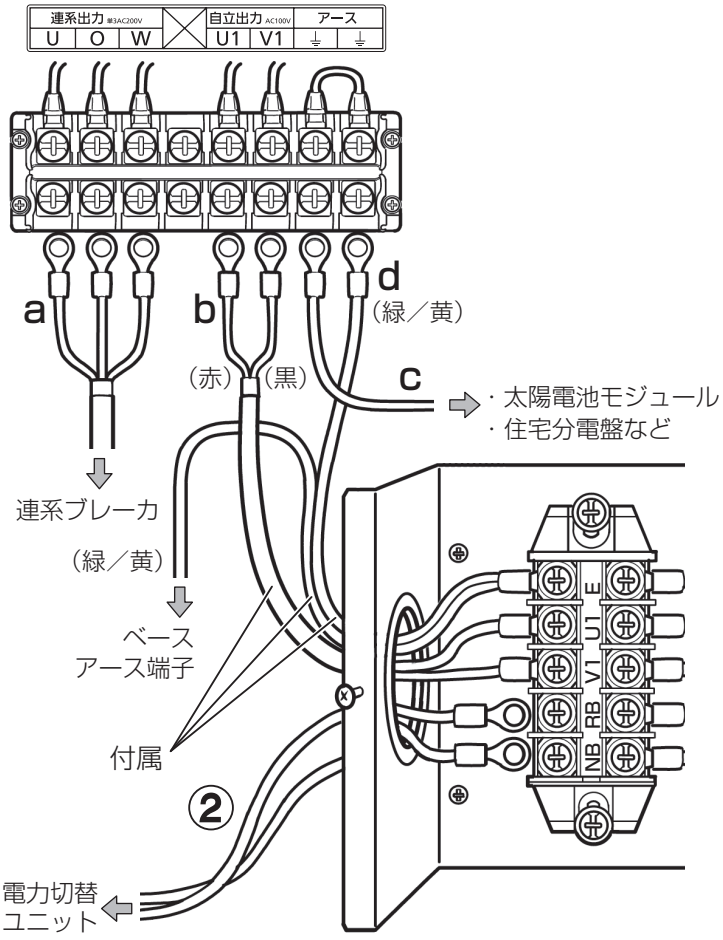
① **a** 連系ブレーカ(L1,N,L2)からの電線を、それぞれ連系出力用端子(U,O,W) に接続する。

b ベースの自立入力用端子(U1,V1)に付属しているケーブルを自立出力用端子(U1,V1)に接続する

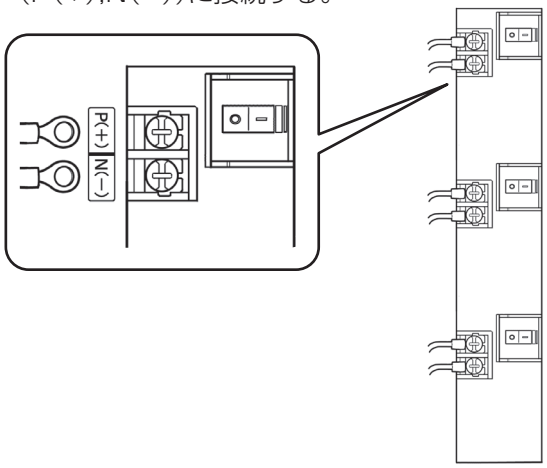
c 太陽電池モジュール、住宅分電盤などからのアース線を接続する

d ベースのアース端子(E)に付属しているケーブルをアース端子に接続する

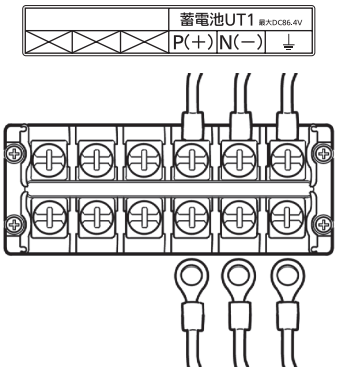
② 電力切替ユニットからの電線をベースの切替器端子(RB,NB)に接続する。



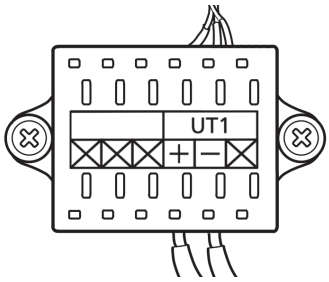
③ 太陽電池モジュールからの電線を太陽電池入力用端子(P(+),N(−))に接続する。



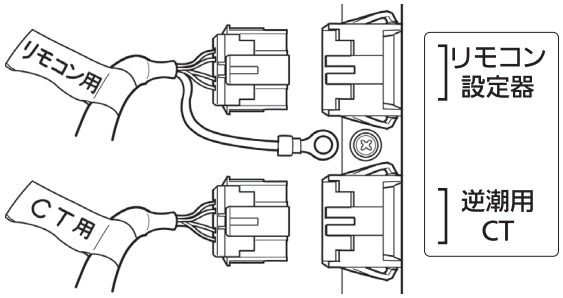
④ 蓄電池ユニットからの電線を蓄電池ユニット用端子(P(+),N(−))、アース端子に接続する。



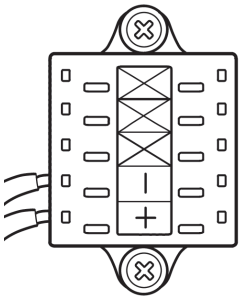
⑤ 蓄電池ユニットからの通信線を蓄電池ユニット通信用端子(+,−)に接続する。



⑥ リモコン設定器からの通信用ケーブルとアース線をリモコン用コネクタとアース端子に接続し、逆潮用CTケーブルを逆潮用CTコネクタに接続する。

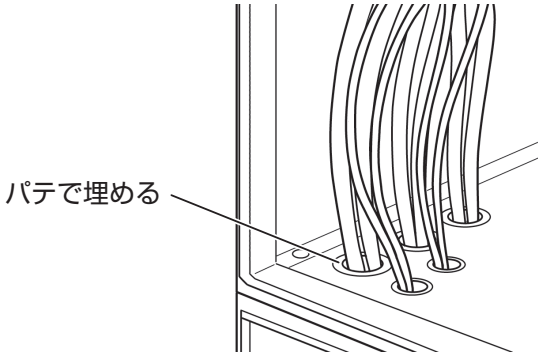


⑦ 電力検出ユニットからの通信線を電力検出ユニット通信用端子(+,−)に接続する。

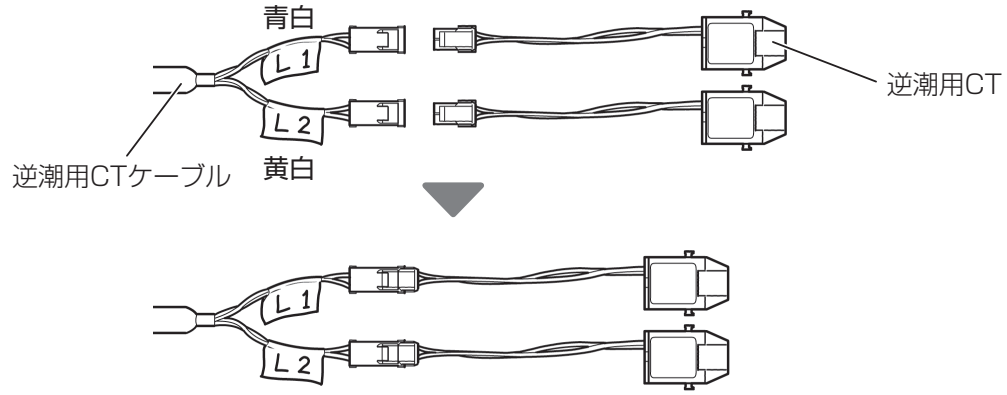


4 配線後、開孔部をパテで埋める

ご注意 束ねた線のすき間もパテで埋めてください。



5 逆潮用CTを逆潮用CTケーブルに接続する

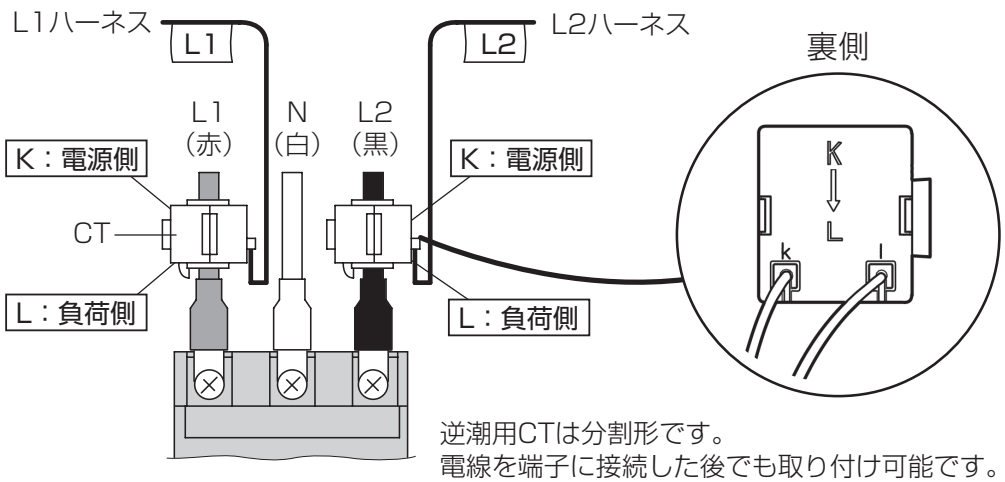


6 逆潮用CTを売電と買電を計測できる位置のL1相・L2相に取り付ける

●ケーブルにラベル表示してあります。

●**CTにはL1側・L2側があります。**
逆潮用CTケーブルの表示を確認して取り付けてください。

●CTには極性があります。電線にCTを貫通される際は、
逆潮用CTケーブル表示の「K側（電源側）」が電力メーター側になる
ようにしてください。

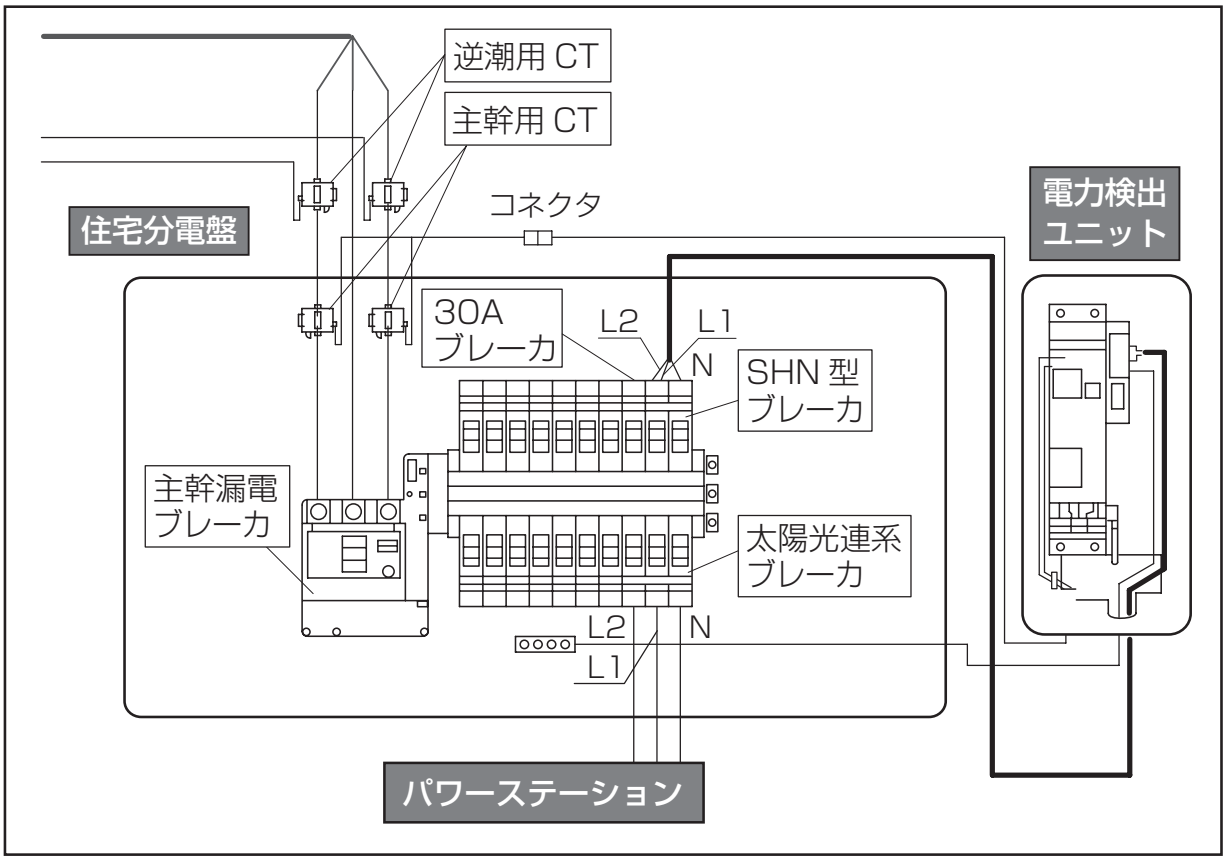


逆潮用CTは分割形です。
電線を端子に接続した後でも取り付け可能です。

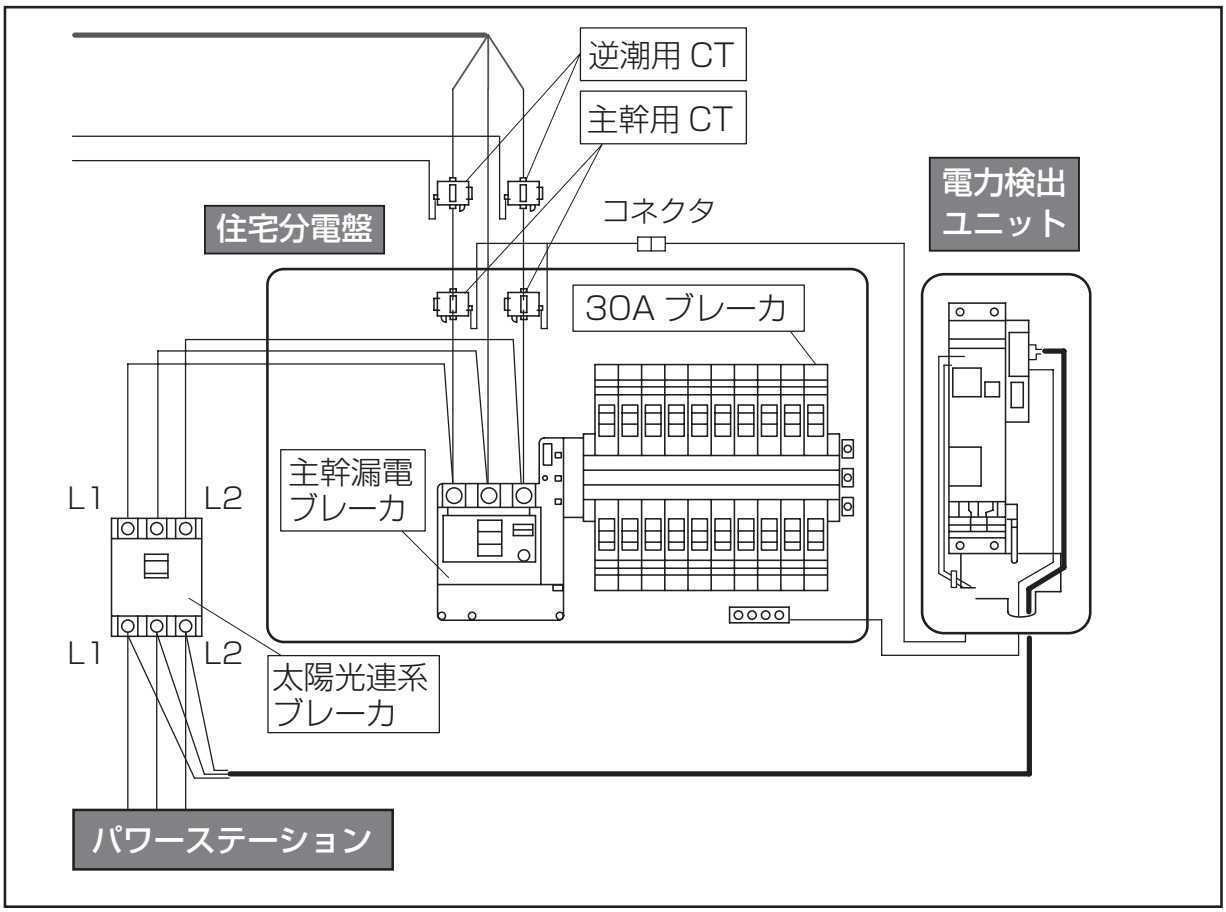
●取付位置は21ページの逆潮用CT取付配線図をご参照ください。

■逆潮用CT取付配線図

2次送り連系で接続する場合（例）

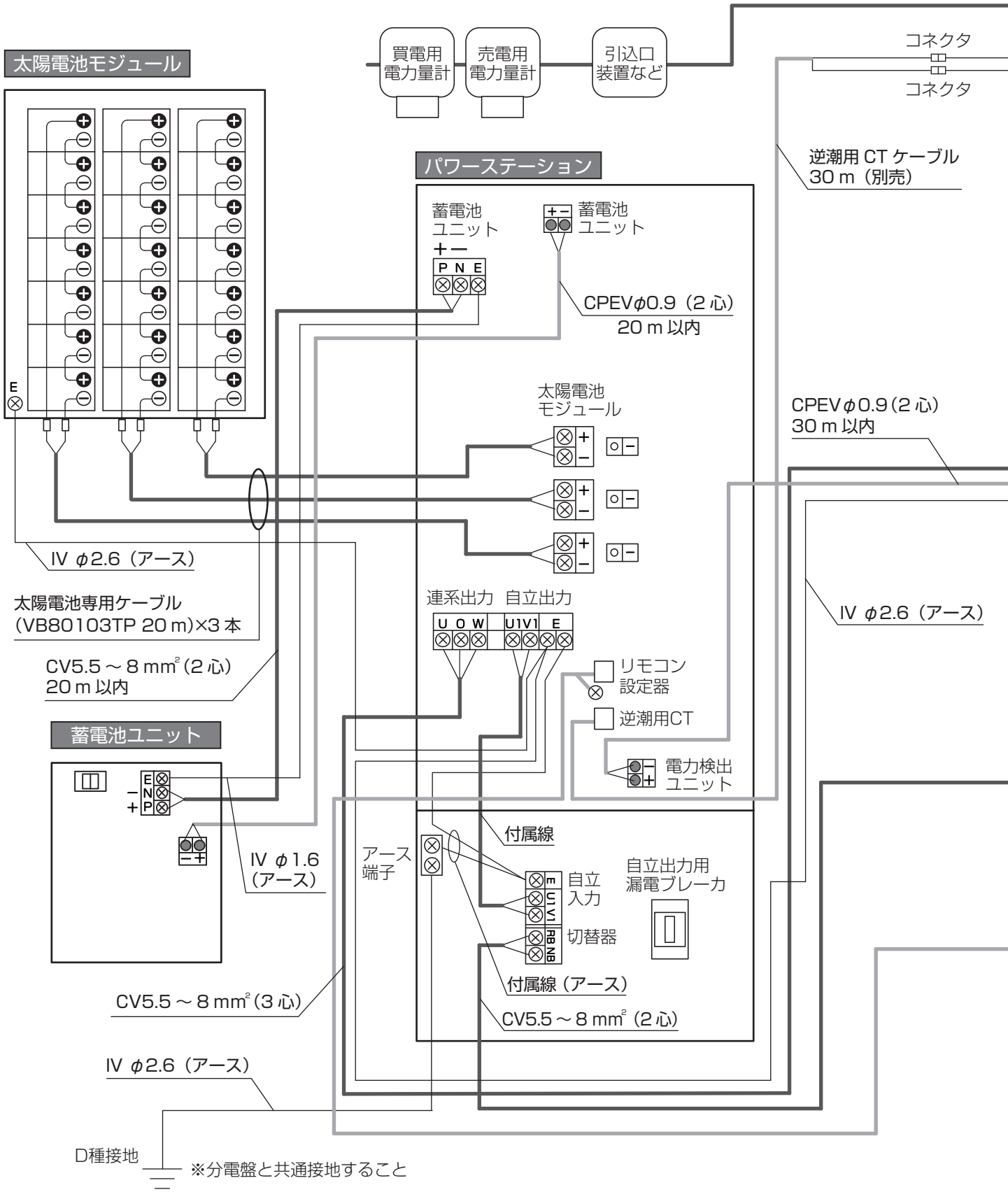


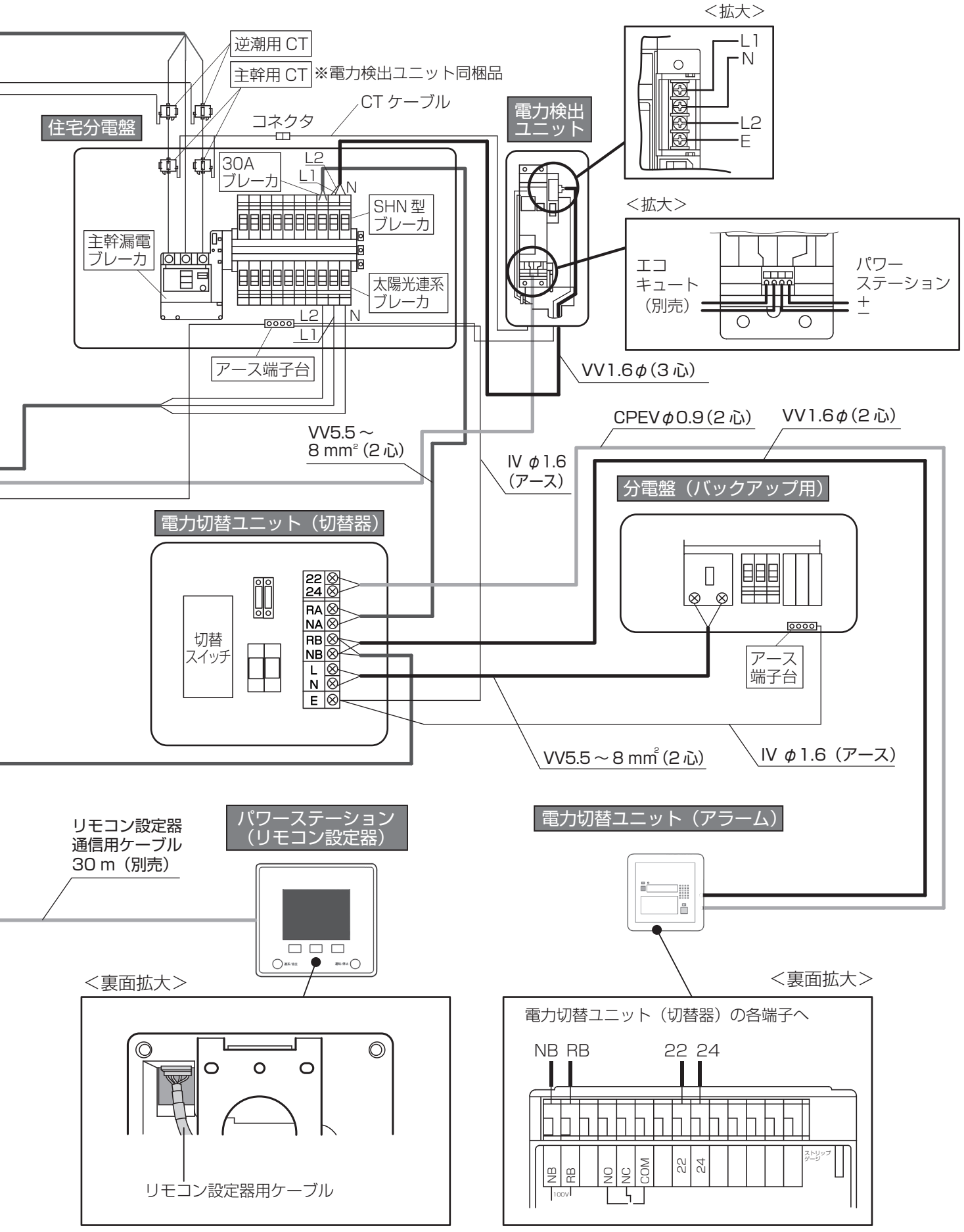
1次送り連系で接続する場合（例）



実体配線

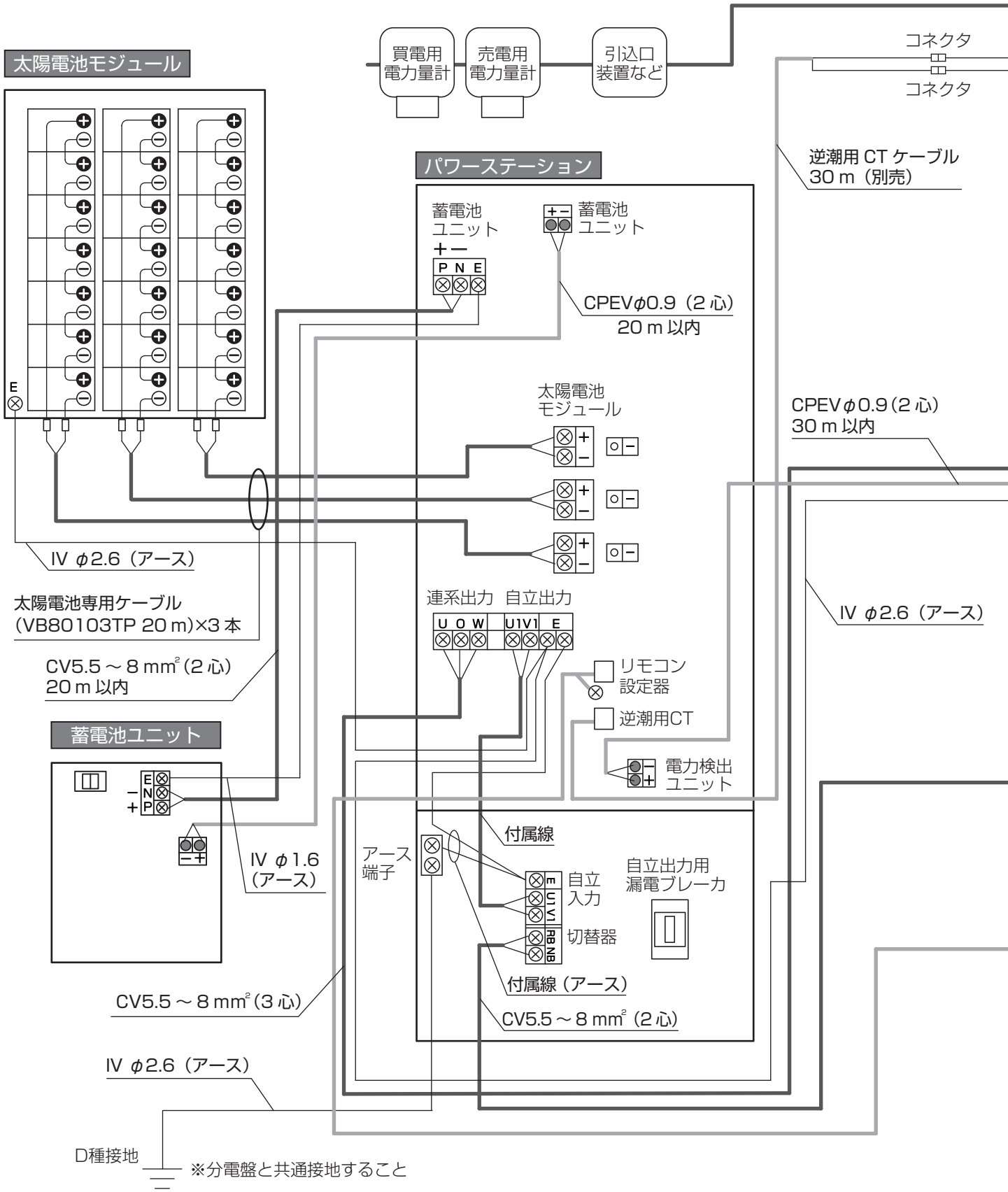
■2次送り連系で接続する場合

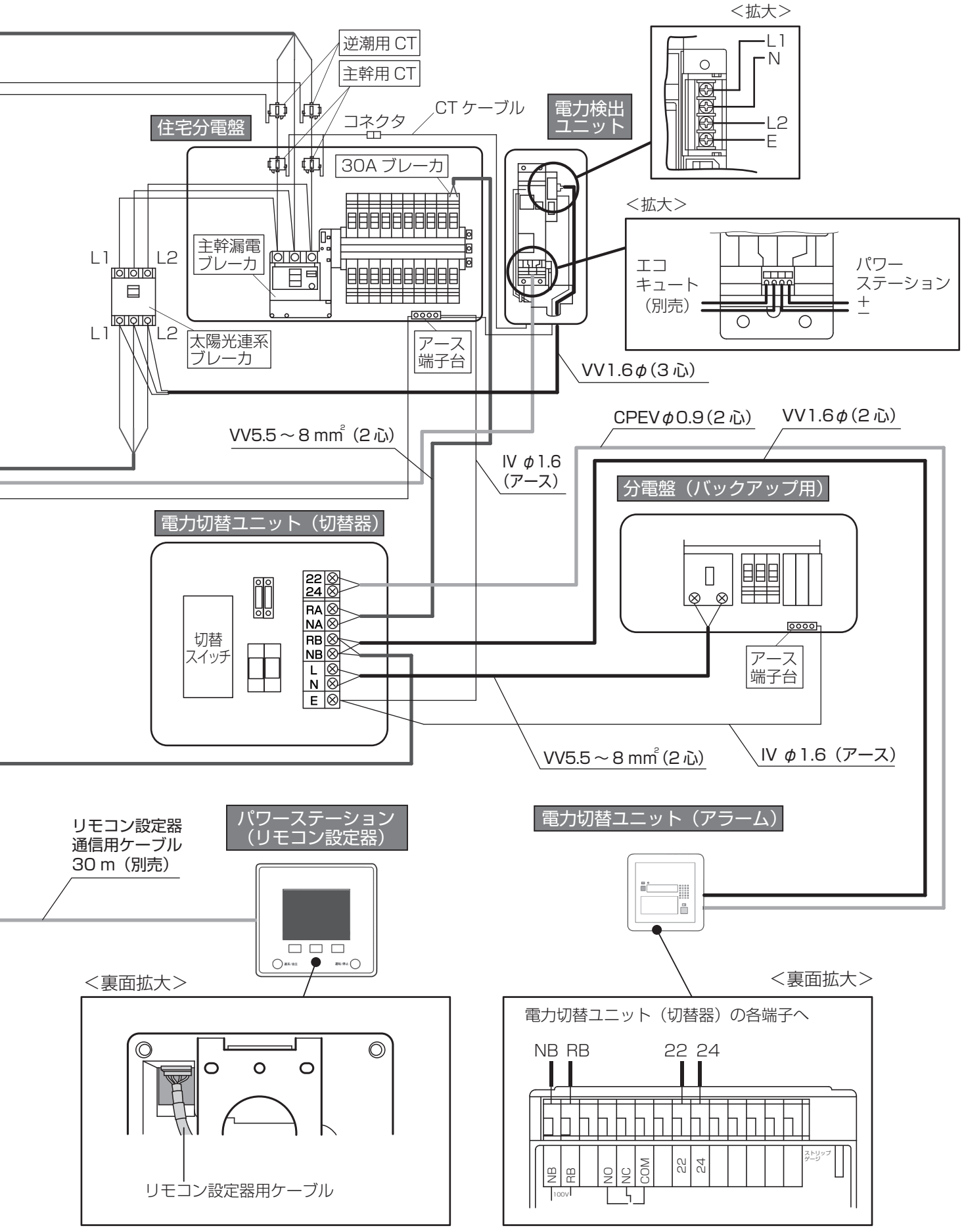



＜拡大＞
L1
N
L2
E
逆潮用 CT
主幹用 CT
※電力検出ユニット同梱品
CT ケーブル
コネクタ
住宅分電盤
電力検出ユニット
30A ブレーカ
L2
L1
N
SHN 型 ブレーカ
主幹漏電 ブレーカ
太陽光連系 ブレーカ
L2
N
L1
アース端子台
＜拡大＞
エコ キュート （別売）
パワー ステーション
＋
－
VV1.6φ（3 心）
CPEVφ0.9（2 心）
VV1.6φ（2 心）
VV5.5 ～ 8 mm²（2 心）
IV φ1.6 （アース）
分電盤（バックアップ用）
電力切替ユニット（切替器）
切替 スイッチ
22
24
RA
NA
RB
NB
L
N
E
アース 端子台
VV5.5 ～ 8 mm²（2 心）
IV φ1.6（アース）
リモコン設定器 通信用ケーブル 30 m（別売）
パワーステーション （リモコン設定器）
電力切替ユニット（アラーム）
＜裏面拡大＞
＜裏面拡大＞
電力切替ユニット（切替器）の各端子へ
NB RB
22 24
NB
RB
NO
NC
COM
22
24
100V
リモコン設定器用ケーブル

実体配線

■1次送り連系で接続する場合




＜拡大＞
逆潮用 CT
主幹用 CT
CT ケーブル
コネクタ
電力検出ユニット
住宅分電盤
30A ブレーカ
L1
N
L2
E
＜拡大＞
主幹漏電ブレーカ
L1
L2
エコキュート（別売）
パワーステーション
＋
－
L1
L2
太陽光連系ブレーカ
アース端子台
VV1.6φ（3 心）
CPEVφ0.9（2 心）
VV1.6φ（2 心）
VV5.5～8 mm²（2 心）
IV φ1.6（アース）
分電盤（バックアップ用）
電力切替ユニット（切替器）
22
24
RA
NA
RB
NB
L
N
E
切替スイッチ
アース端子台
VV5.5～8 mm²（2 心）
IV φ1.6（アース）
リモコン設定器
通信用ケーブル
30 m（別売）
パワーステーション（リモコン設定器）
電力切替ユニット（アラーム）
＜裏面拡大＞
＜裏面拡大＞
電力切替ユニット（切替器）の各端子へ
NB RB
22 24
NB
RB
NO
NC
COM
22
24
100V
リモコン設定器用ケーブル

自立運転の確認

全ての電源が OFF であることを確認し、下記の手順に従って、確認の上通電をしてください。
誤接続のまま通電すると、パワーステーションや蓄電池ユニットが故障します。
（誤接続など、工事不良による修理対応は保証が適用されず有償修理となります。）

1 太陽電池モジュールの配線確認を行う

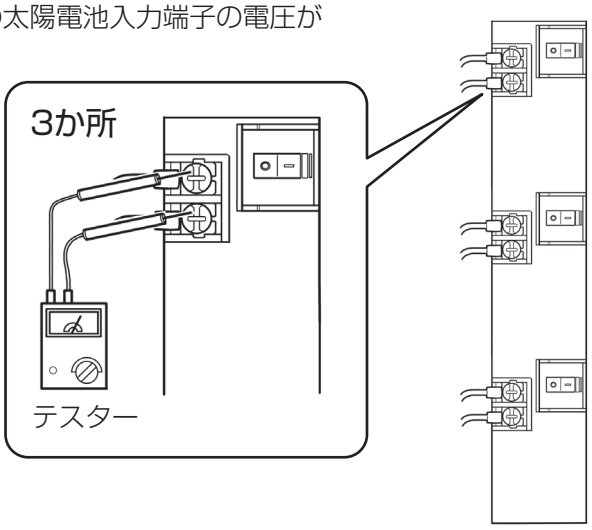
ご注意 パワーステーションの太陽電池入力開閉器はまだONにしないでください。

① 日射があることを確認する。

② 太陽電池モジュールとパワーステーションへのケーブルを連結する。

③ パワーステーションの接続されている全ての太陽電池入力端子の電圧が下記の通りになっているか確認する。

（極性にも注意すること）
N端子（−）とP端子（+）間電圧：
DC80 ～ 420 V



2 蓄電池ユニットの通電確認を行う

① [+]ケーブルと[−]ケーブルがショートしていないことを確認し、蓄電池ユニットの開閉器をONにする。

② 蓄電池ユニットのLEDの運転ランプが赤点灯することを確認する。

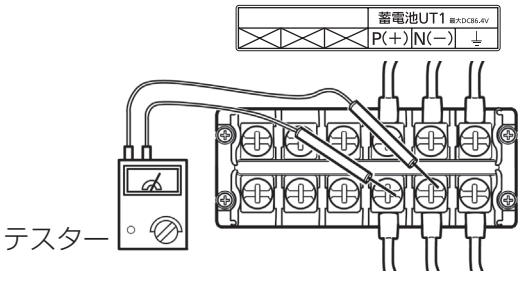
③ パワーステーションの蓄電池ユニット端子の電圧が下記の通りになっているか確認する。

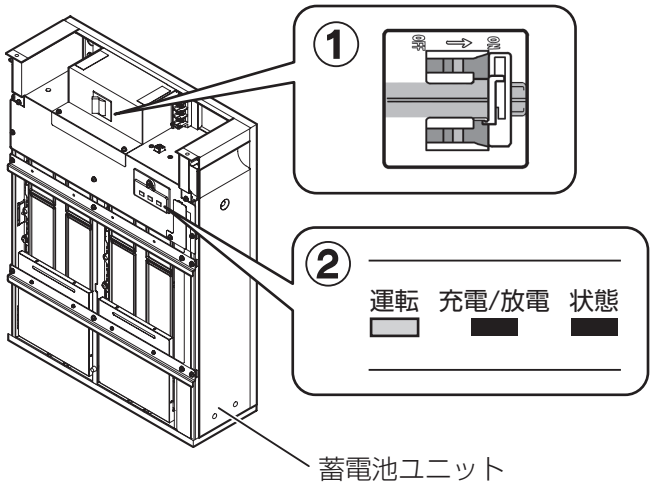
（極性にも注意すること。）
P(+)端子とN(−)端子間電圧：
DC70 ～ 130 V

⚠警告

必ず守る

●蓄電池ユニットの[+]ケーブル(黒色)と[−]ケーブル（白色)はショートさせない
ショートさせると蓄電池ユニットの故障、および発火・感電のおそれがあります。

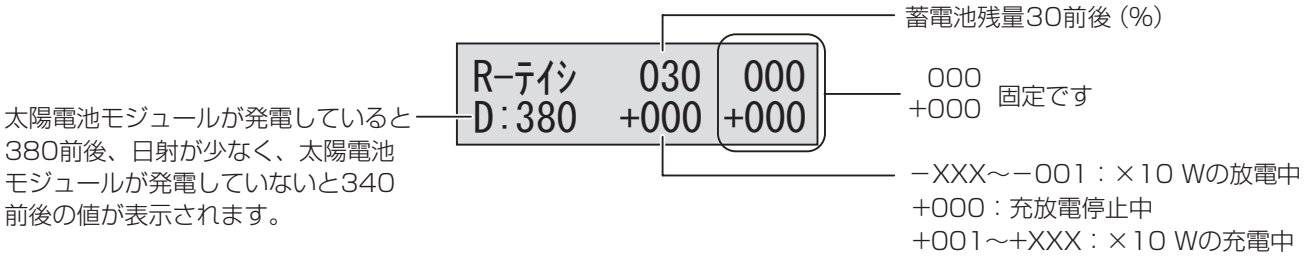




3 パワーステーションを起動する

① 接続されている太陽電池入力の全ての開閉器をONにする。

② 本体液晶の表示が下図のようになっていることを確認する。
※リモコン設定器は「自立運転と蓄電池の通信確認を行う」の表示をご確認ください。
値はおおよその値となっています。

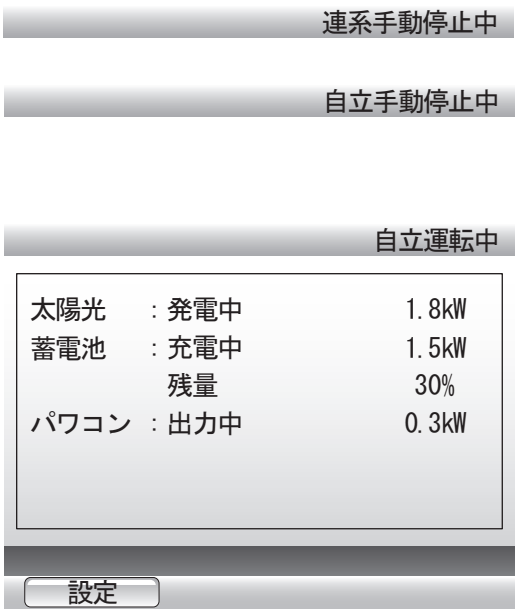


4 蓄電池ユニットとの通信確認、自立運転の確認を行う

① リモコン設定器の表示を確認する。

② リモコン設定器の**【連系／自立】**ボタンを５秒以上長押しする。
⇨「自立手動停止中」になります。

③ リモコン設定器の**【運転／停止】**ボタンを押す。
⇨「自立運転中」になり、**【連系／自立】**ボタンが赤点灯します。
太陽光発電量と蓄電池充電量が表示されます。

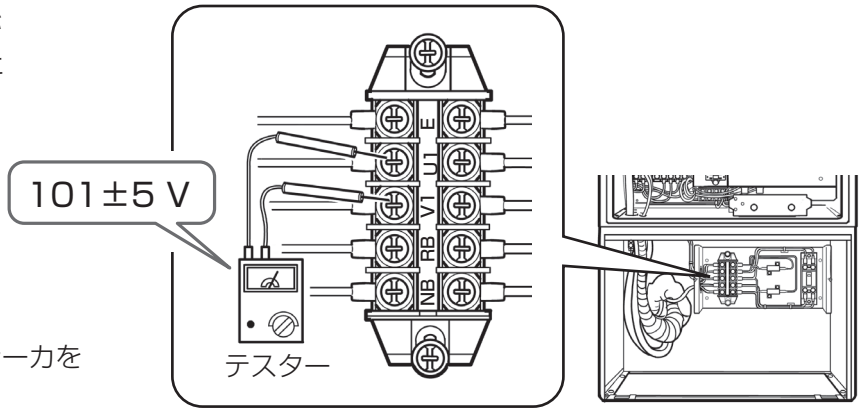


蓄電池に充電される電力は、最大 1.5 kW になります。（日射の度合いにより 0 〜 1.5 kW の値を表示します。）負荷（電気製品）が接続されていないので、太陽光発電電力から蓄電池電力を引いた差分が、パワーステーションの運転を維持する出力電力として、0.0 〜 0.3 kW 表示されます。

太陽光発電が行われていないときは、蓄電池より放電されます。
蓄電池ユニットの充電／放電ランプが充電のときは赤、放電のときは緑に点灯します。

5 自立入力用端子（U1,V1）の通電確認を行う

① ベース自立入力の端子電圧が101±5 Vになっていることを確認する。



② ベースの自立出力用漏電ブレーカをONにする。

6 電力切替ユニットの接続確認を行う

① バックアップ分電盤のブレーカが OFF になっていることを確認する。

② 電力切替ユニットの自立入力端子(RB)(NB)の電圧が 100 V になっていることを確認する。

③ 電力切替ユニットの切替スイッチを「自立側」にする。

④ 電力切替ユニットの出力端子(L)(N)の電圧が100 Vになっていることを確認する。

⑤ 電力切替ユニットのアラームの自立運転中ランプの点灯を確認する。

⑥ バックアップ分電盤の主幹端子の電圧が 100 V になっていることを確認する。

7 自立運転を停止する

連系運転の確認をするまでに2日以上期間が空く場合

●下記①～⑤を実施し、システムを停止してください。
システムを停止しないと、蓄電池ユニットの過放電防止機能がはたらく可能性があります。※下記参照
(連系運転を開始するときはシステムを再起動します。)

●引き続き連系運転の確認をする場合は、①～④を実施し、蓄電池ユニットの停止や、次ページの本体前面パネル、ベース前面パネルの取り付けをせず、30 ページ「整定置の確認」へ進んでください。

① リモコン設定器の**【運転／停止】**ボタンを 5 秒以上長押しし、運転を停止させる。

⇨ **【連系／自立】**ボタンが消灯します。

② 電力切替ユニットの切替スイッチを「切」にする。

③ パワーステーションの本体操作部の**【戻る】**ボタンを長押しする。

⇨ 「Sht Dwn」と表示されます。
蓄電池ユニットの充放電を停止し、シャットダウンします。

④ パワーステーションの太陽電池入力の開閉器を全てOFFにし、自立出力用漏電ブレーカをOFFにする。

⑤ 蓄電池ユニットの開閉器をOFFにし、トップカバー、フロントカバーを取り付ける。

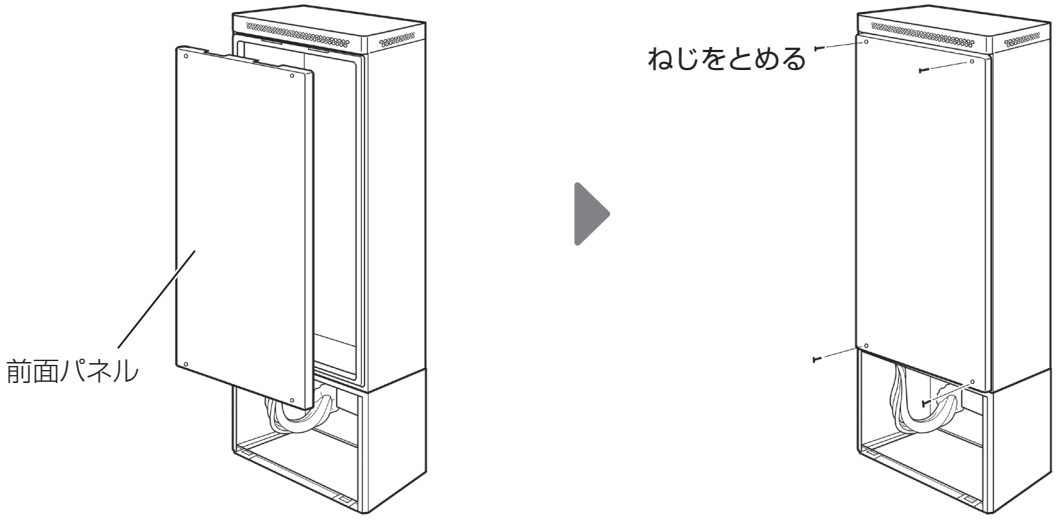
蓄電池ユニットの過放電防止機能について

商用電源、太陽電池モジュールからの電源供給がないと、蓄電池ユニットに充電されなくなります。
蓄電池ユニットが残量0%の状態で充電されない状況が2日以上続くと過放電を防止するために、蓄電池ユニットの開閉器を自動的にOFFします。
過放電防止機能がはたらいたときは、蓄電池ユニットに充電できる状況で開閉器をONにしてください。

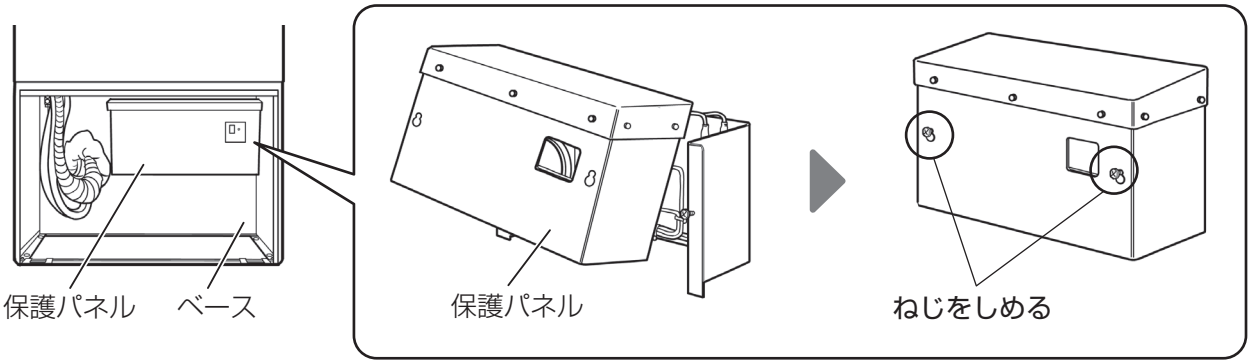
8 本体前面パネル、ベース前面パネルを取り付ける

締め付けトルク：1.2 N・m

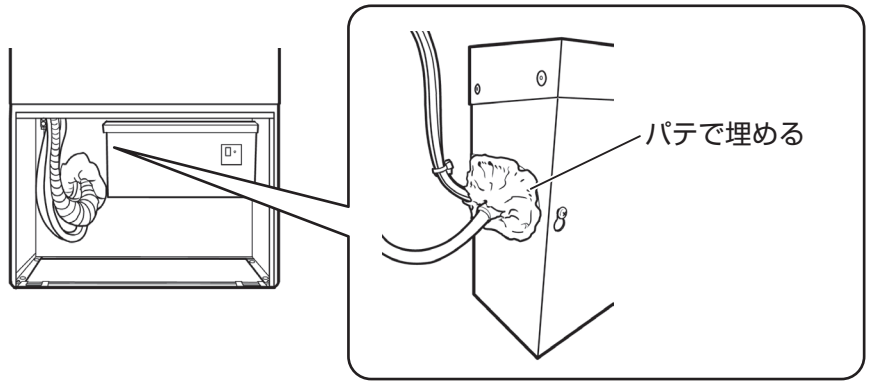
① 本体に前面パネルを取り付け、4か所のねじをとめる。



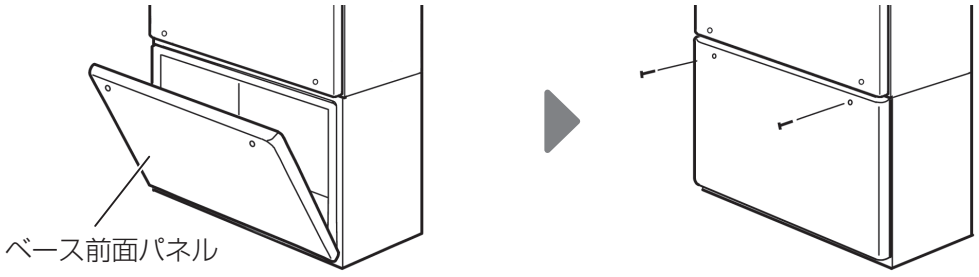
② ベース内部の保護パネルを取り付け、2か所のねじをしめる。



③ 保護パネルの配線開口部をパテで埋める。



④ ベースに前面パネルを取り付け、2 か所のねじをとめる。



整定値の確認（電力会社との協議）

整定値を電力会社に確認し、値を決めてください。

表示項目	整定項目	初期値	整定値の範囲		整定値
OVR	交流過電圧検出値	115.0 V	110.0 V 113.0 V	115.0 V 119.0 V	
UVR	交流不足電圧検出値	80.0 V	80.0 V 85.0 V	90.0 V 93.0 V	
VDLY	交流過電圧、 交流不足電圧検出時間	1.0 秒	0.5 秒 1.0 秒	1.5 秒 2.0 秒	
OFR	周波数上昇検出値	1.0 Hz	0.5 Hz 1.0 Hz	1.5 Hz 2.0 Hz	
UFR	周波数低下検出値	−1.5 Hz	−0.5 Hz −1.0 Hz	−1.5 Hz −2.0 Hz	
FDLY	周波数上昇、 周波数低下検出時間	1.0 秒	0.5 秒 1.0 秒	1.5 秒 2.0 秒	
TIMER	再並列阻止時間 （復電後から発電を 開始する時間）	300 秒	10 秒 150 秒 180 秒	240 秒 300 秒	
VOV	電圧上昇抑制値	109.0 V	OFF 107.0 V 107.5 V 108.0 V 108.5 V 109.0 V	109.5 V 110.0 V 110.5 V 111.0 V 111.5 V 112.0 V	
TDPH	受動的方式	3˚	OFF 3˚ 6˚ 9˚	12˚ 15˚ 18˚	
VOVL	電圧上昇抑制レベル	0 %	0 % 50 %		

整定値の設定

整定値の確認（電力会社との協議）を行ったうえで設定してください。
電力会社との協議が完了するまで連系ブレーカを ON にすることはできません。

1 システムが停止している場合は再起動をする

① 13ページを参照し、本体前面パネルとベース前面パネルを取り外す。
パワーステーションの太陽電池入力の開閉器がOFFになっていることを確認する。

② 蓄電池ユニットのフロントカバー、トップカバーを取り外し、開閉器をONにする。

③ 連系ブレーカをONにする。（2次送り連系の場合は主幹ブレーカもONにすること）
⇨連系ブレーカ、主幹ブレーカの端子電圧が100／200Vになっていることを確認します。

2 リモコン設定器をサービスマンモード画面に切り換える

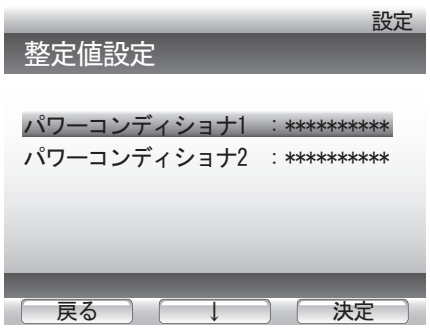
① トップ画面において、自立手動停止中あるいは
連系手動停止中であることを確認する。

② 設定 と 中ボタン を同時に5秒以上長押しし、
サービスマンモード画面に切り換える。

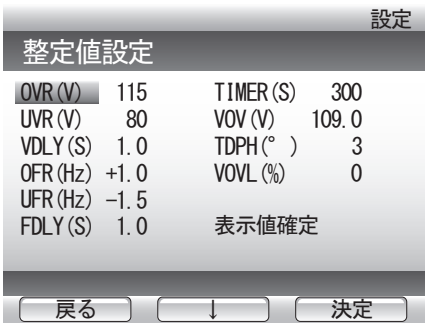
3 整定値を設定する

① サービスマンモード画面で「整定値」を
選択し、決定 を押す。

② 「パワーコンディショナ１」が選択されて
いることを確認し、決定 を押す。
※「パワーコンディショナ2」は使用しません。

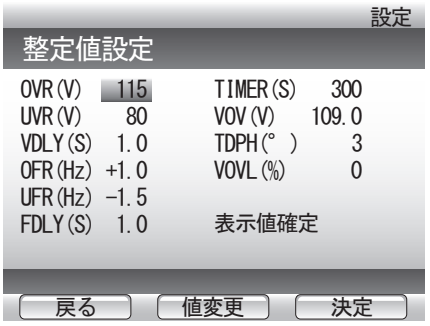


③ 整定値の各項目メニューが表示されますので、30ページの整定値の表にしたがい、変更する項目を [↓] で選択し、[決定] を押す。



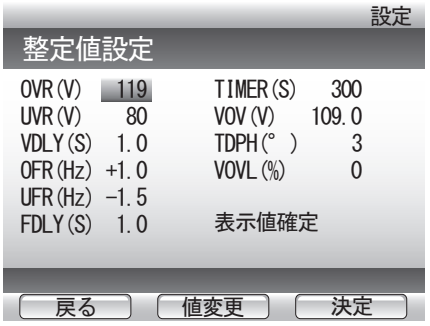
[決定]

④ [値変更] を押すと値が変わりますので、設定したい値を表示する。



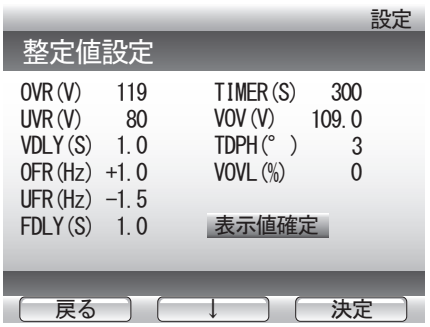
[値変更]

⑤ [決定] を押すと項目選択状態に戻る。
変更する項目があれば、③～⑤を繰り返す。



[決定]

⑥ 変更が終了すれば、表示値確定を選択し、[決定] を押す。



[決定]

⑦ 設定内容が確定し、確認画面が表示される。

確認画面に戻ります。

[戻る] 3回

トップ画面に戻ります。

⇨ [戻る] を3回押すとトップ画面に戻ります。

連系運転の確認

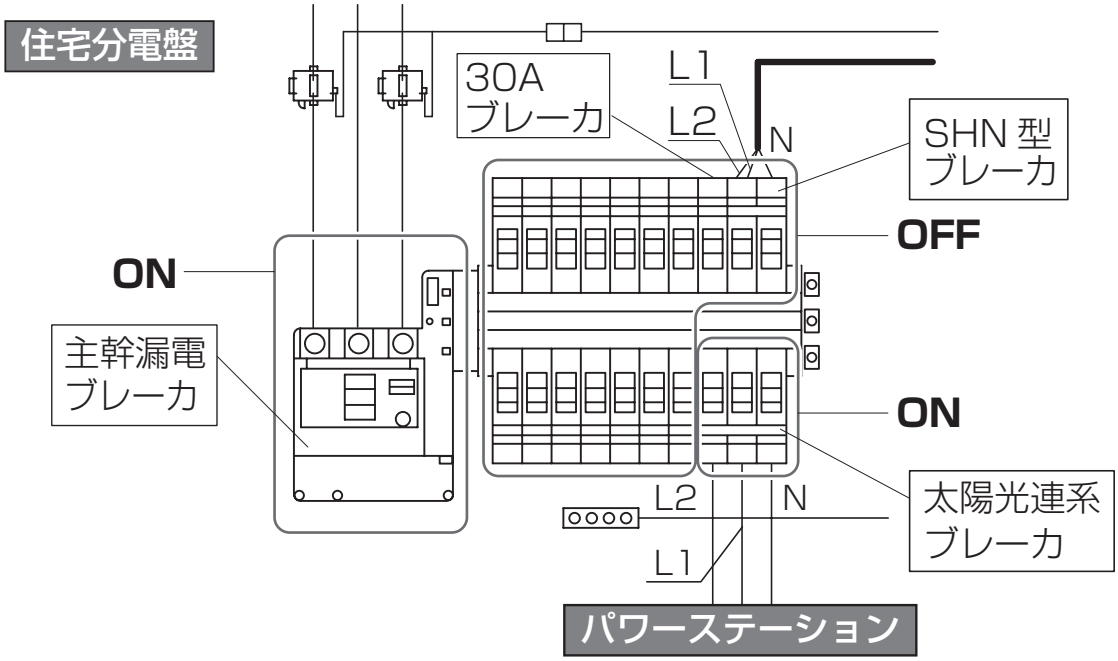
1 逆潮用CTの取り付け確認をする

全ての負荷をOFFにし、蓄電池への充電量のみが、取り付けた逆潮用CTにより
正しく計測されることを確認します。

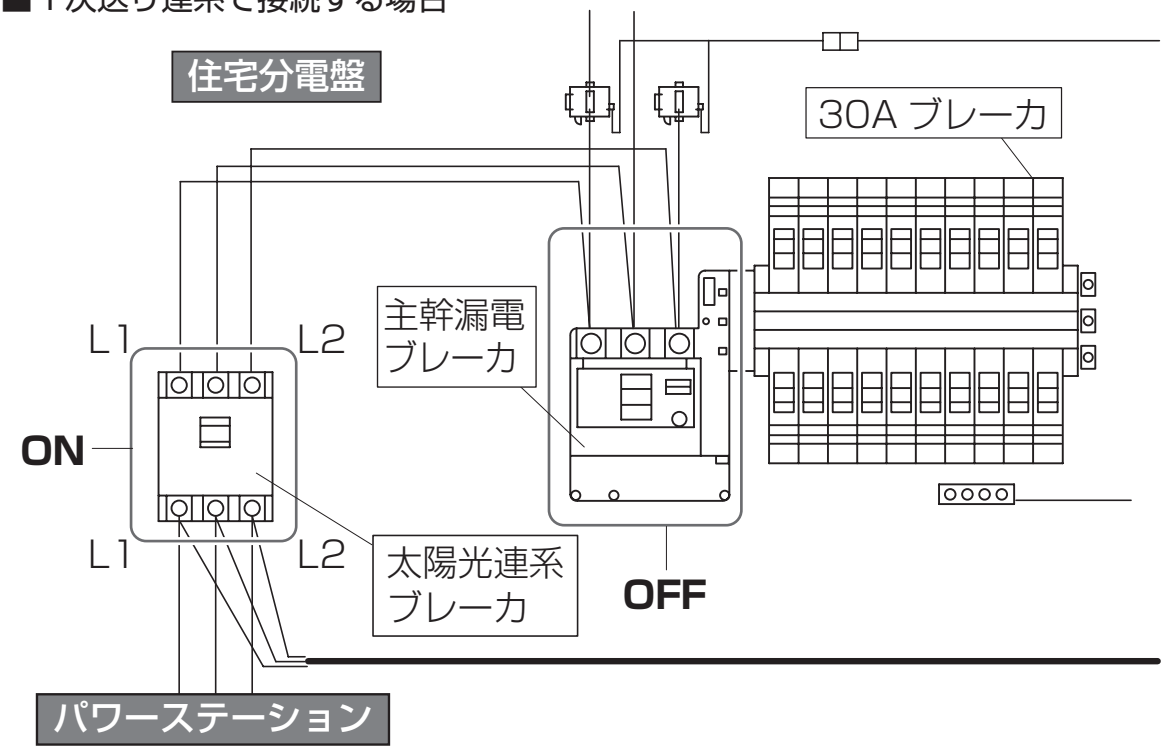
次の2点を確認してください。

- **太陽電池入力の開閉器がOFFになっており、蓄電池ユニットの開閉器がONになっているか。**
- **パワーステーションが接続されている連系ブレーカがONになっており、それ以外の負荷へのブレーカがOFFになっているか。**

■2次送り連系で接続する場合



■1次送り連系で接続する場合



① 連系手動停止中であることを確認する。

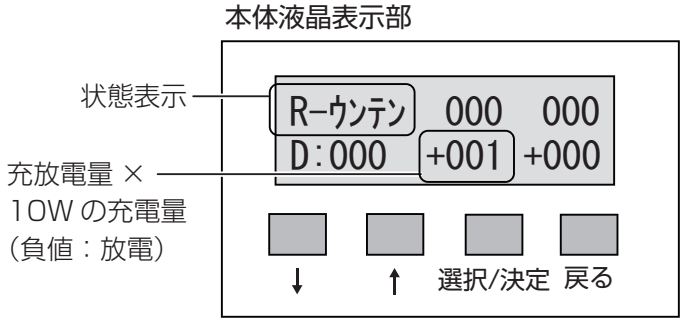
② リモコン設定器の **[運転／停止]** ボタンを押して連系運転を開始する。

➡ **[連系／自立]** ボタンが緑点灯し、「連系運転中」が表示されます。

③ 本体液晶表示部の充放電量を確認する。

➡ +140 前後の値（1.4 kW 充電中）が表示されます。

本体液晶表示部



④ 本体センサー表示部のセンサー CH 切替ボタンを押し、センサー CH を「センサー 1」に切り換える。

⑤ 本体センサー表示部の計測単位切替ボタンを数回押し、計測単位を「kW」に切り換える。

⑥ 本体センサー表示部の計測値が、本体液晶表示部の充放電量よりも大きい値であることを確認する。

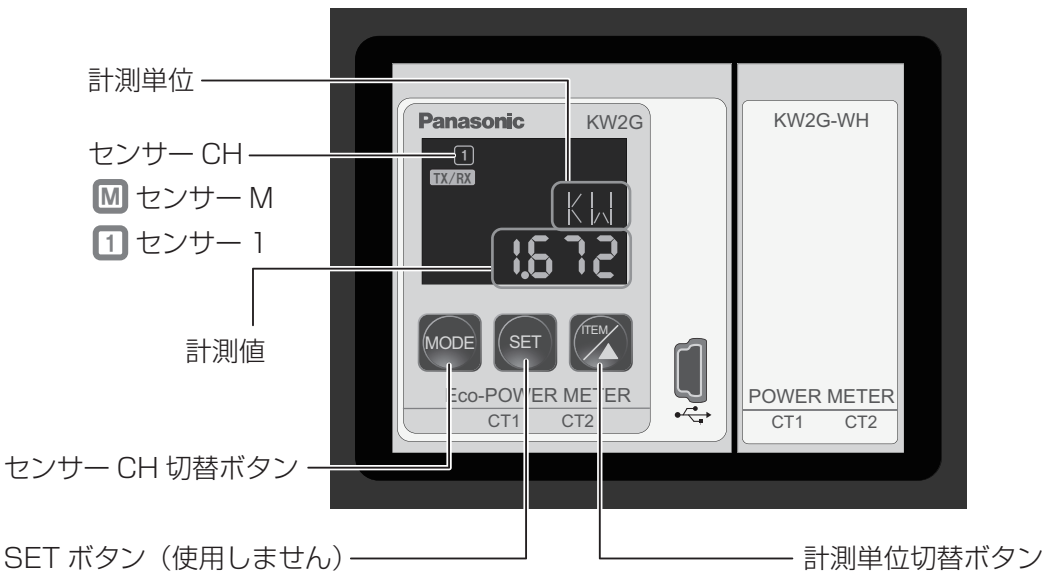
➡ 1.6 kW 前後の値が表示されます。

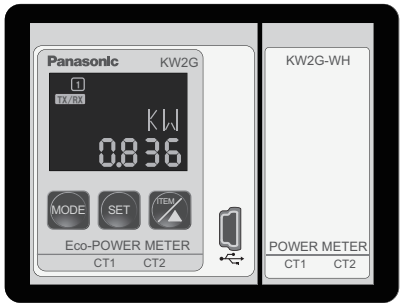
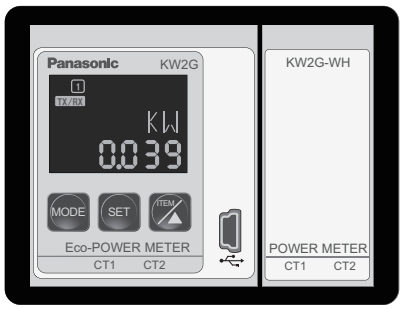
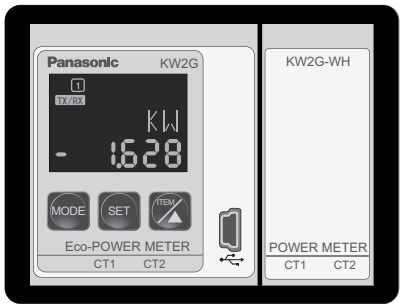
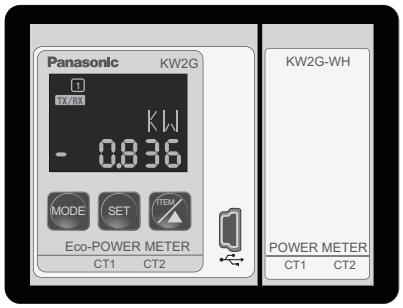
⑦ 表示内容が異なっていれば、次ページの表を参考に逆潮用 CT を付け替える。

⑧ リモコン設定器の **[運転／停止]** ボタンを 5 秒以上長押しして、連系運転を停止する。

➡「連系手動停止中」が表示され **[連系／自立]** ボタンが消灯します。

本体センサー表示部



状態表示	確認内容（対処方法）
	**A.** センサー表示部の計測値が、本体液晶表示の充電量の半分程度の場合 ⇨ 間違ったケーブルに逆潮用 CT が取り付けられていないかご確認ください。
	**B.** センサー表示部の計測値が、0程度の場合 ⇨ 逆潮用 CT の極性（L 側、K 側）が逆に取り付けられていないかご確認ください。
	**C.** センサー表示部の計測値が、マイナス表示になっている場合 ⇨ 逆潮用 CT の極性（L 側、K 側）が逆に取り付けられていないかご確認ください。
	**D.** センサー表示部の計測値が、マイナス表示かつ本体液晶表示の充電量の半分程度の場合 ⇨ 間違ったケーブルに逆潮用 CT が取り付けられていないかご確認ください。

上記確認内容（対処方法）で解決しない場合は、36 ページ「逆潮用 CT 接続確認表」を確認の上、対処してください。

■逆潮用CT接続確認表

No.	逆潮用CT(L1用)		逆潮用CT(L2用)		正誤	対処方法
	位置	極性	位置	極性		
1	L1(赤)	正	L2(黒)	正	正	逆潮用CTは正しく取り付けられています。
2	L1(赤)	正	L2(黒)	逆	誤(B)	逆潮用CTの極性(L側、K側)が逆に取り付けられていないかご確認ください。
3	L1(赤)	正	N(白)	正	誤(A)	逆潮用CTが間違ったケーブルに取り付けられていないかご確認ください。
4	L1(赤)	正	N(白)	逆	誤(A)	逆潮用CTが間違ったケーブルに取り付けられていないかご確認ください。
5	L1(赤)	正	取付不良	−	誤(A)	逆潮用CTが確実にケーブルに取り付けられているかご確認ください。
6	L1(赤)	逆	L2(黒)	正	誤(B)	逆潮用CTの極性(L側、K側)が逆に取り付けられていないかご確認ください。
7	L1(赤)	逆	L2(黒)	逆	誤(C)	逆潮用CTの極性(L側、K側)が逆に取り付けられていないかご確認ください。
8	L1(赤)	逆	N(白)	正	誤(D)	逆潮用CTが間違ったケーブルに取り付けられていないかご確認ください。
9	L1(赤)	逆	N(白)	逆	誤(D)	逆潮用CTが間違ったケーブルに取り付けられていないかご確認ください。
10	L1(赤)	逆	取付不良	−	誤(D)	逆潮用CTが確実にケーブルに取り付けられているかご確認ください。
11	L2(黒)	正	L1(赤)	正	誤(C)	逆潮用CTが間違ったケーブルに取り付けられていないかご確認ください。
12	L2(黒)	正	L1(赤)	逆	誤(B)	逆潮用CTが間違ったケーブルに取り付けられていないかご確認ください。
13	L2(黒)	正	N(白)	正	誤(D)	逆潮用CTが間違ったケーブルに取り付けられていないかご確認ください。
14	L2(黒)	正	N(白)	逆	誤(D)	逆潮用CTが間違ったケーブルに取り付けられていないかご確認ください。
15	L2(黒)	正	取付不良	−	誤(D)	逆潮用CTが間違ったケーブルに取り付けられていないかご確認ください。 逆潮用CTが確実にケーブルに取り付けられているかご確認ください。
16	L2(黒)	逆	L1(赤)	正	誤(B)	逆潮用CTが間違ったケーブルに取り付けられていないかご確認ください。
17	L2(黒)	逆	L1(赤)	逆	誤※	逆潮用CTの位置、極性が共に逆ですが、正しく動作します。
18	L2(黒)	逆	N(白)	正	誤(A)	逆潮用CTが間違ったケーブルに取り付けられていないかご確認ください。
19	L2(黒)	逆	N(白)	逆	誤(A)	逆潮用CTが間違ったケーブルに取り付けられていないかご確認ください。
20	L2(黒)	逆	取付不良	−	誤(A)	逆潮用CTが間違ったケーブルに取り付けられていないかご確認ください。 逆潮用CTが確実にケーブルに取り付けられているかご確認ください。
21	N(白)	正	L1(赤)	正	誤(D)	逆潮用CTが間違ったケーブルに取り付けられていないかご確認ください。
22	N(白)	正	L1(赤)	逆	誤(A)	逆潮用CTが間違ったケーブルに取り付けられていないかご確認ください。
23	N(白)	正	L2(黒)	正	誤(A)	逆潮用CTが間違ったケーブルに取り付けられていないかご確認ください。
24	N(白)	正	L2(黒)	逆	誤(D)	逆潮用CTの極性(L側、K側)が逆に取り付けられていないかご確認ください。 逆潮用CTが間違ったケーブルに取り付けられていないかご確認ください。
25	N(白)	正	取付不良	−	誤(B)	逆潮用CTが間違ったケーブルに取り付けられていないかご確認ください。 逆潮用CTが確実にケーブルに取り付けられているかご確認ください。
26	N(白)	逆	L1(赤)	正	誤(D)	逆潮用CTが間違ったケーブルに取り付けられていないかご確認ください。
27	N(白)	逆	L1(赤)	逆	誤(A)	逆潮用CTが間違ったケーブルに取り付けられていないかご確認ください。
28	N(白)	逆	L2(黒)	正	誤(A)	逆潮用CTが間違ったケーブルに取り付けられていないかご確認ください。
29	N(白)	逆	L2(黒)	逆	誤(D)	逆潮用CTの極性(L側、K側)が逆に取り付けられていないかご確認ください。 逆潮用CTが間違ったケーブルに取り付けられていないかご確認ください。
30	N(白)	逆	取付不良	−	誤(B)	逆潮用CTが間違ったケーブルに取り付けられていないかご確認ください。 逆潮用CTが確実にケーブルに取り付けられているかご確認ください。
31	取付不良	−	L1(赤)	正	誤(D)	逆潮用CTが間違ったケーブルに取り付けられていないかご確認ください。 逆潮用CTが確実にケーブルに取り付けられているかご確認ください。
32	取付不良	−	L1(赤)	逆	誤(A)	逆潮用CTが間違ったケーブルに取り付けられていないかご確認ください。 逆潮用CTが確実にケーブルに取り付けられているかご確認ください。
33	取付不良	−	L2(黒)	正	誤(A)	逆潮用CTが確実にケーブルに取り付けられているかご確認ください。
34	取付不良	−	L2(黒)	逆	誤(D)	逆潮用CTの極性(L側、K側)が逆に取り付けられていないかご確認ください。 逆潮用CTが確実にケーブルに取り付けられているかご確認ください。
35	取付不良	−	N(白)	正	誤(B)	逆潮用CTが間違ったケーブルに取り付けられていないかご確認ください。 逆潮用CTが確実にケーブルに取り付けられているかご確認ください。
36	取付不良	−	N(白)	逆	誤(B)	逆潮用CTが間違ったケーブルに取り付けられていないかご確認ください。 逆潮用CTが確実にケーブルに取り付けられているかご確認ください。
37	取付不良	−	取付不良	−	誤(B)	逆潮用CTが確実にケーブルに取り付けられているかご確認ください。

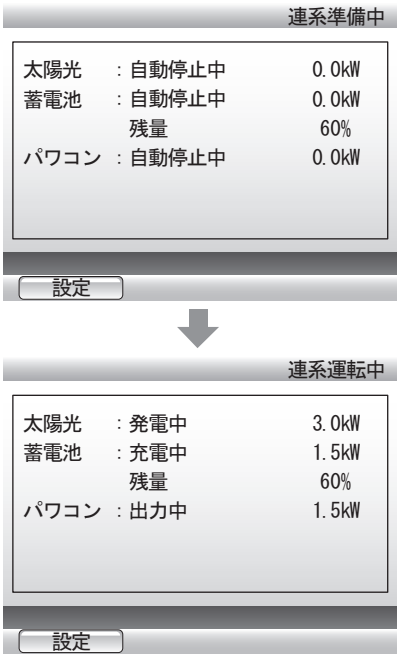
2 連系運転を確認する

① パワーステーションの太陽電池入力の開閉器を全て ON にし、自立出力用漏電ブレーカを ON にする。

② 主幹ブレーカ、電力切替ユニット送りブレーカを ON にする。
⇨ 電力切替ユニット送りブレーカの端子電圧が 100 V になっていることを確認します。

③ リモコン設定器の **[運転／停止]** ボタンを押し、連系運転を開始する。
⇨「運転準備中」の表示約 10 秒後、「連系運転中」が表示され、**[連系／自立]** ボタンが緑点灯します。

初期動作モードは蓄電優先モードになっています。
蓄電池残量が満充電になるまでは、蓄電池充電電力は最大 1.5 kW となります。
太陽光発電電力から蓄電池充電電力を引いた値がパワコン出力電力となります。
太陽光発電電力が蓄電池電力より少ない場合、商用電源からも充電を行い、「パワコン：入力中」と表示されます。



3 電力切替ユニットの接続確認を行う

① バックアップ分電盤のブレーカが OFF になっていることを確認する。

② 電力切替ユニットの商用入力端子（RA）(NA)の電圧が 100 V になっていることを確認する。

③ 電力切替ユニットの切替スイッチを「商用側」にする。

④ 電力切替ユニットの出力端子(L)(N)の電圧が100 Vになっていることを確認する。

⑤ バックアップ分電盤の主幹端子の電圧が 100 V になっていることを確認する。

4 停電時の復電確認を行う

① 住宅分電盤の主幹ブレーカと連系ブレーカを OFF にする。

⇨ リモコン設定器に停電のエラーコード E-99 が表示されます。

② 電力切替ユニットの切替スイッチを「自立側」にする。

③ リモコン設定器の**【戻る】**ボタンでエラーメッセージを消去し、**【運転／停止】**ボタンを 5 秒以上長押しし、連系運転を停止する。

⇨「連系手動停止中」が表示され**【連系／自立】**ボタンが消灯します。

④ リモコン設定器の**【連系／自立】**を 5 秒以上長押しし、「自立手動停止中」に切り換える。

⑤ リモコン設定器の**【運転／停止】**ボタンを押して自立運転を開始する。

⇨「自立運転中」が表示され**【連系／自立】**ボタンが赤点灯します。

⑥ 住宅分電盤の主幹ブレーカと連系ブレーカを ON にする。

⇨ 電力切替ユニットのアラームが鳴ることを確認します。

⑦ 電力切替ユニットのアラームの**【停止】**ボタンを押してアラームを停止する。

⑧ リモコン設定器の**【運転／停止】**ボタンを 5 秒以上長押しして自立運転を停止する。

⇨「自立手動停止中」が表示され**【連系／自立】**ボタンが消灯します。

⇨ 警報表示灯が消灯します。

⑨ 電力切替ユニットの切替スイッチを「商用側」にする。

お客様への引き渡し（連系運転開始）まで 2 日以上期間が空く場合

●下記の①～③を実施し、いったんシステムを停止後、引き渡し時に ④～⑥ を実施して再度システムを起動し、次ページ 5、6 の設定を行ってください。
（システムを停止しないと、蓄電池ユニットの過放電防止機能がはたらく可能性があります。※28ページ参照）

●引き続き、お客様に引き渡しを行う場合は、次ページの 5、6 の設定を行ってください。

●作業完了後は、取り外していた全面パネルや、カバーを取り付け、取扱説明書に従い連系運転を開始してください。

■システム停止

① パワーステーションの本体操作部の**【戻る】**ボタンを長押しする。

⇨「Sht Dwn」と表示されます。

② パワーステーションの太陽電池入力の全ての開閉器、蓄電池ユニットの開閉器、住宅分電盤の連系ブレーカを OFF にする。

③ パワーステーション本体とベースの前面パネルを取り付け、蓄電池ユニットのトップカバーとフロントカバーを取り付ける。

■システム起動

④ 蓄電池ユニットのフロントカバーとトップカバーを取り外し、開閉器を ON にする。

⑤ 住宅分電盤の連系ブレーカを ON にする。

⑥ パワーステーション本体の前面パネルを取り外し、太陽電池入力の全ての開閉器を ON にする。

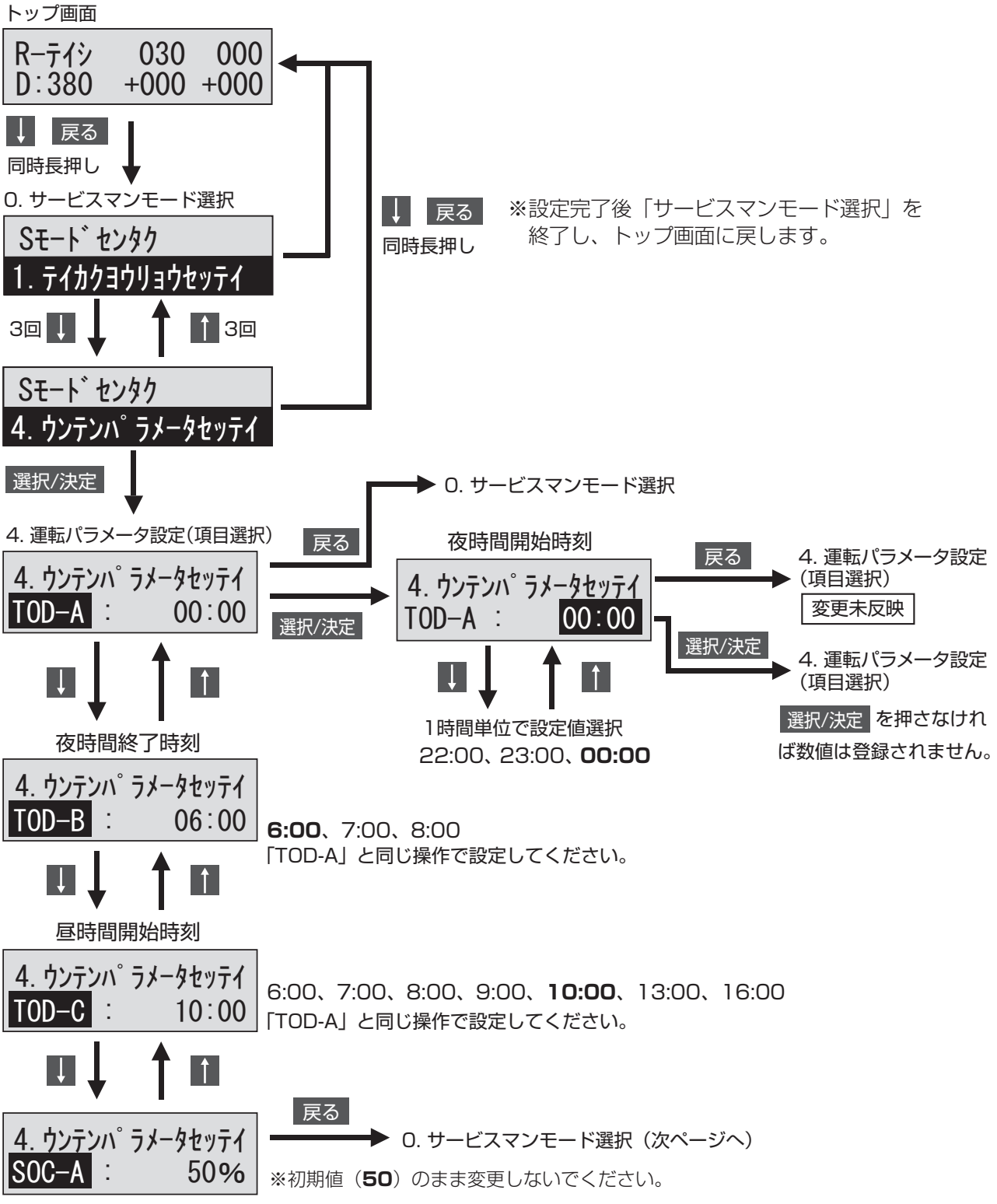
5 運転パラメータを設定する

お客様の電気料金契約プランをご用意ください。
時間帯別電灯契約の場合は運転パラメータを設定します。

下記の運転パラメータは、パワーステーションの動作に必要な情報です。**（太字は初期値を表しています。）**

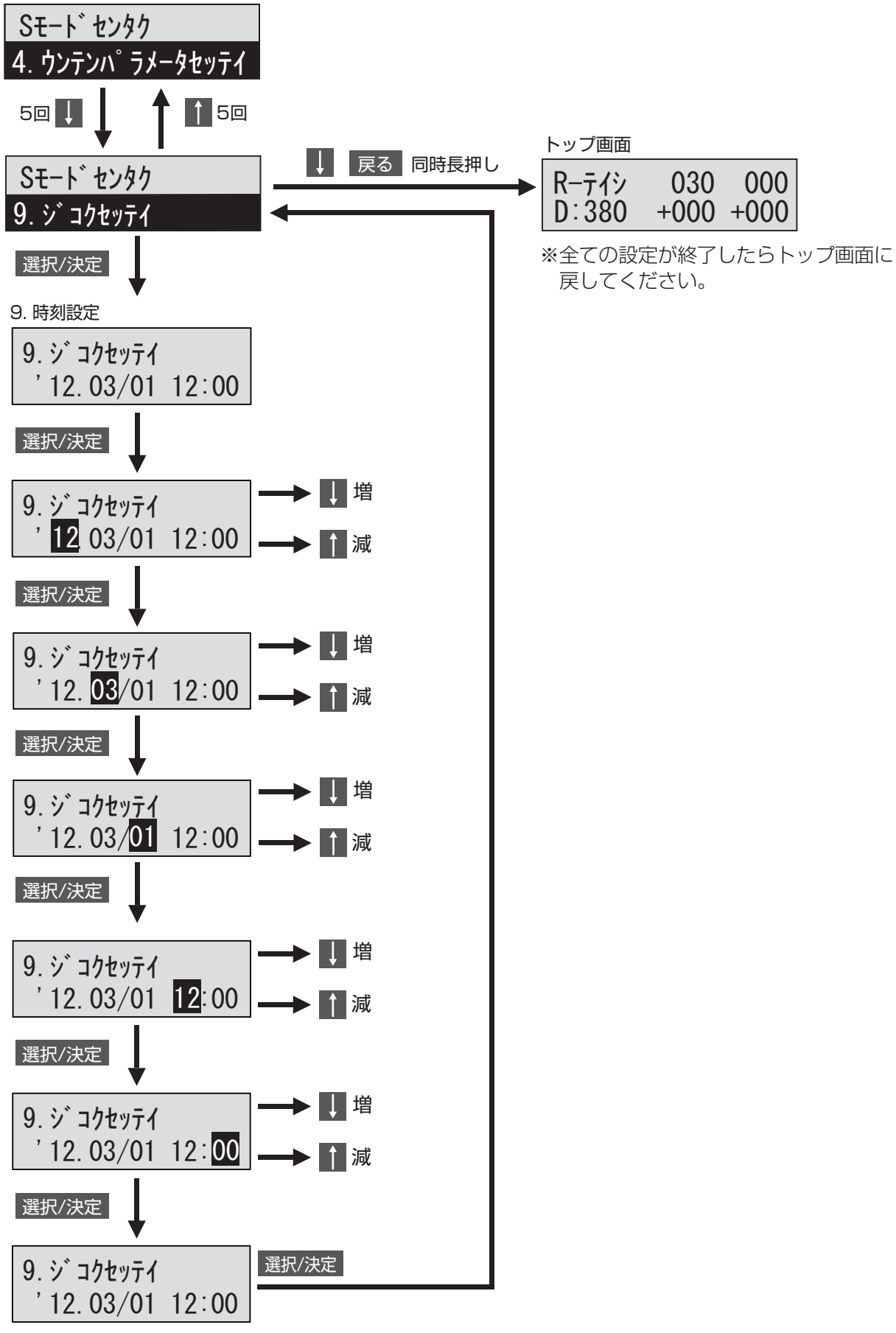
- ●TOD-A：夜時間開始時刻　22:00、23:00、**00:00**
- ●TOD-B：夜時間終了時刻　**6:00**、7:00、8:00
- ●TOD-C：昼時間開始時刻　6:00、7:00、8:00、9:00、**10:00**、13:00、16:00
  （TOD-Bより前の時刻には設定できません。）

お客様の電気料金契約プランによってTOD-A～TOD-Cを設定します。
※従量電灯契約の場合は設定不要です。



6 時刻を設定する

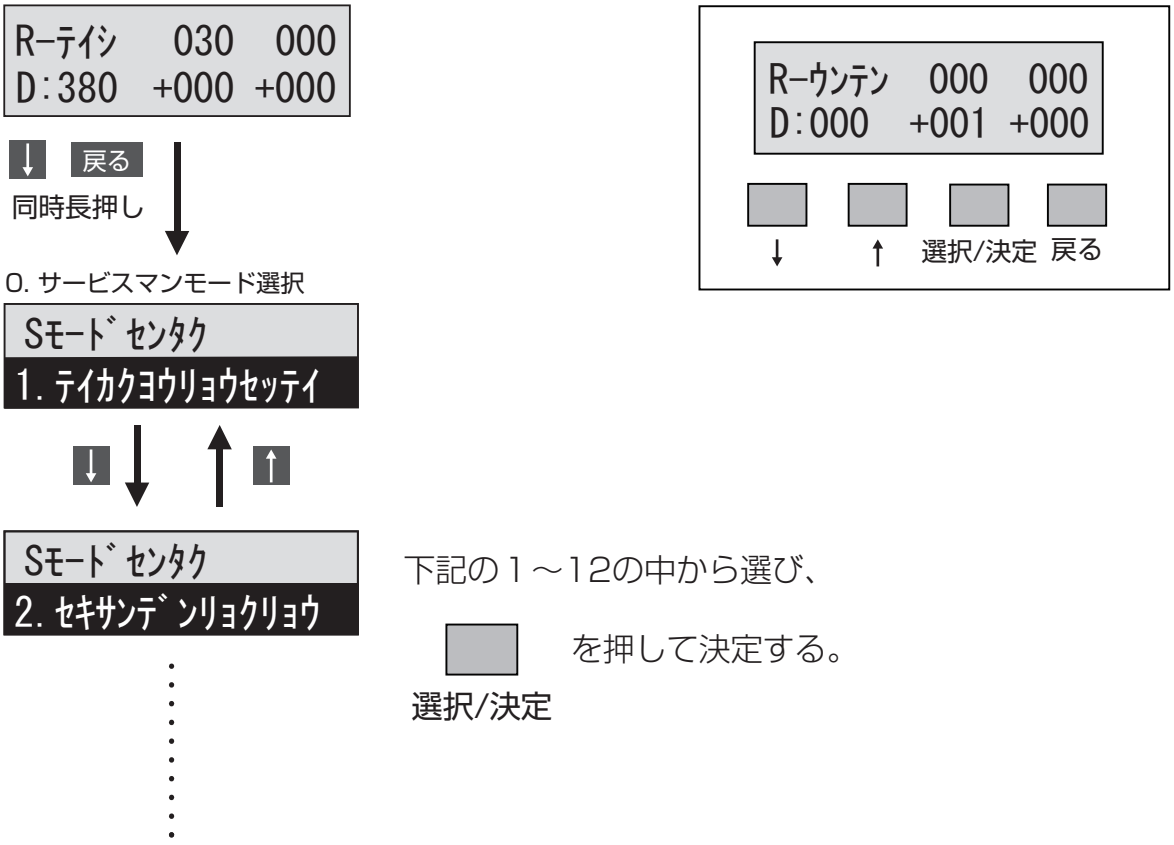
接続機器（ワイヤレスエネルギーモニタ（7 型）・モニタリングアダプタ）が接続されると、
接続機器の表示時刻と同期します。



メンテナンス機能

通常の施工手順では使用しませんが、メンテナンス機能として使用する機能をご説明します。

■メンテナンス機能の選択



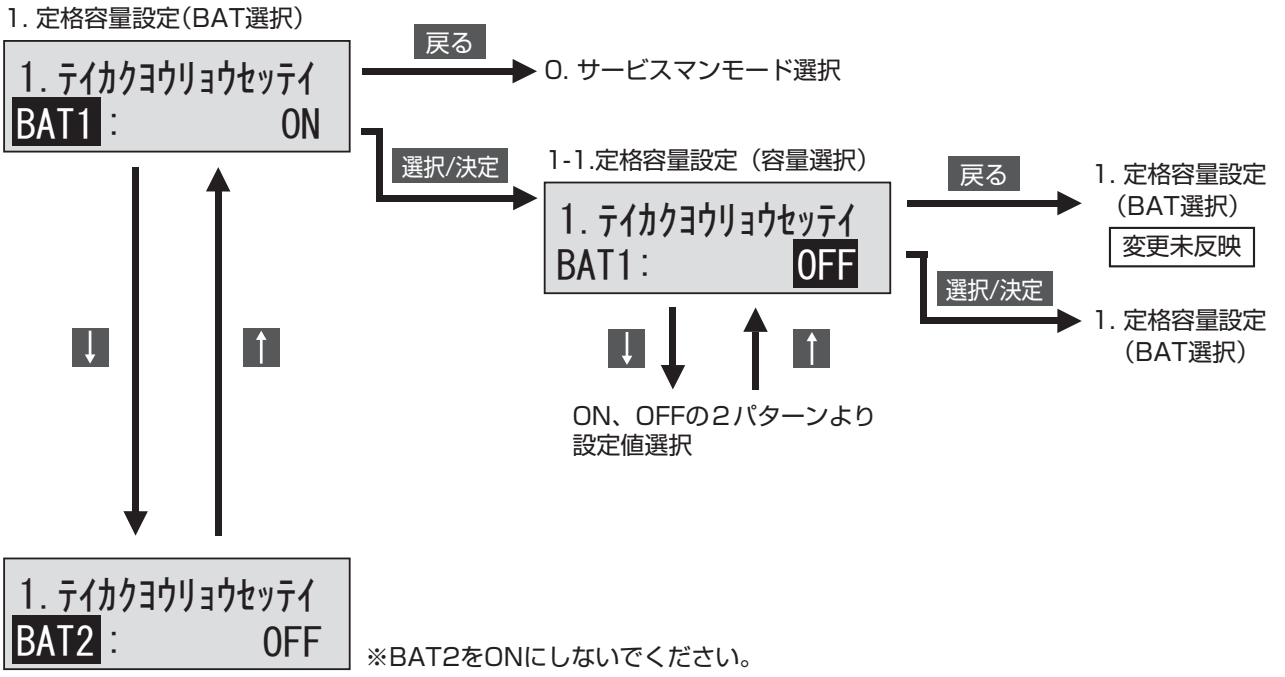
下記の１～12の中から選び、

□ を押して決定する。

選択/決定

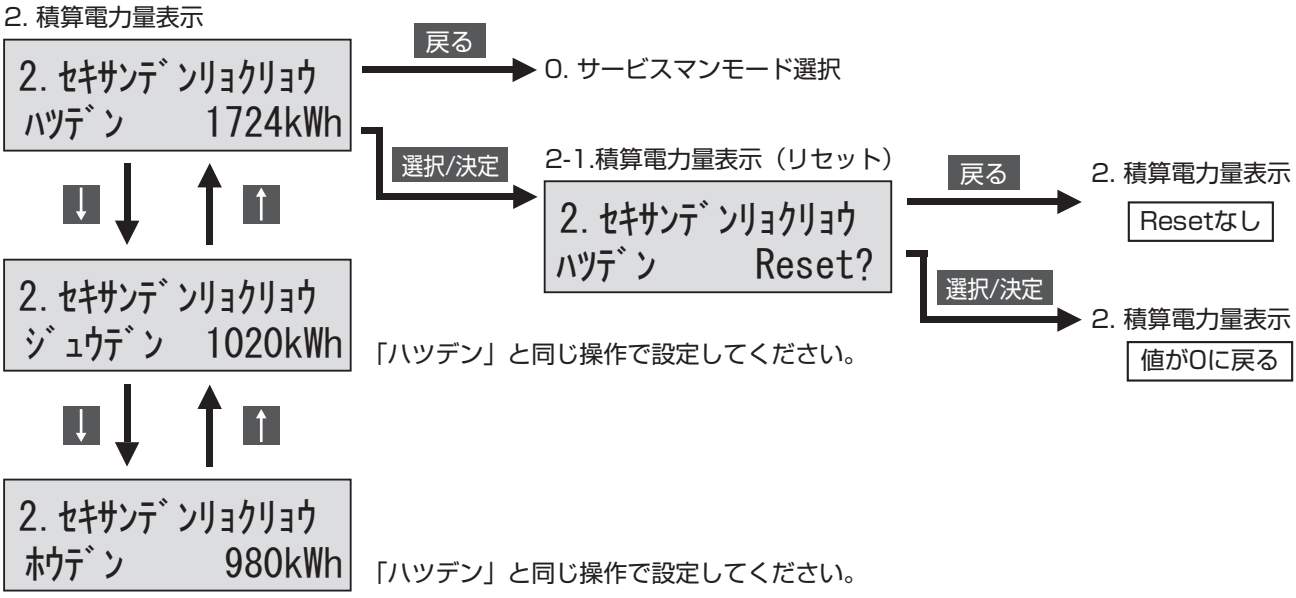
1.	テイカクヨウリョウセッテイ	（定格容量設定　42ページ）
2.	セキサンデンリョクリョウ	（積算電力量確認　42ページ）
3.	ドウサモードセンタク	（動作モード選択　43ページ）
4.	ウンテンパラメータセッテイ	（運転パラメータ設定　43ページ）
5.	キノウマスクセッテイ	（機能マスク設定　44ページ）
6.	エラーリレキヒョウジ	（エラー履歴表示　44ページ）
7.	ソフトVerヒョウジ	（ソフトバージョン表示　45ページ）
8.	キキIDヒョウジ	（機器ID表示　45ページ）
9.	ジコクセッテイ	（時刻設定　45ページ）
10.	デンアツヨクセイリレキ	（電圧抑制履歴表示　46ページ）
11.	オンドヨクセイリレキ	（温度抑制履歴表示　46ページ）
12.	ショキカ	（初期化　47ページ）

定格容量設定

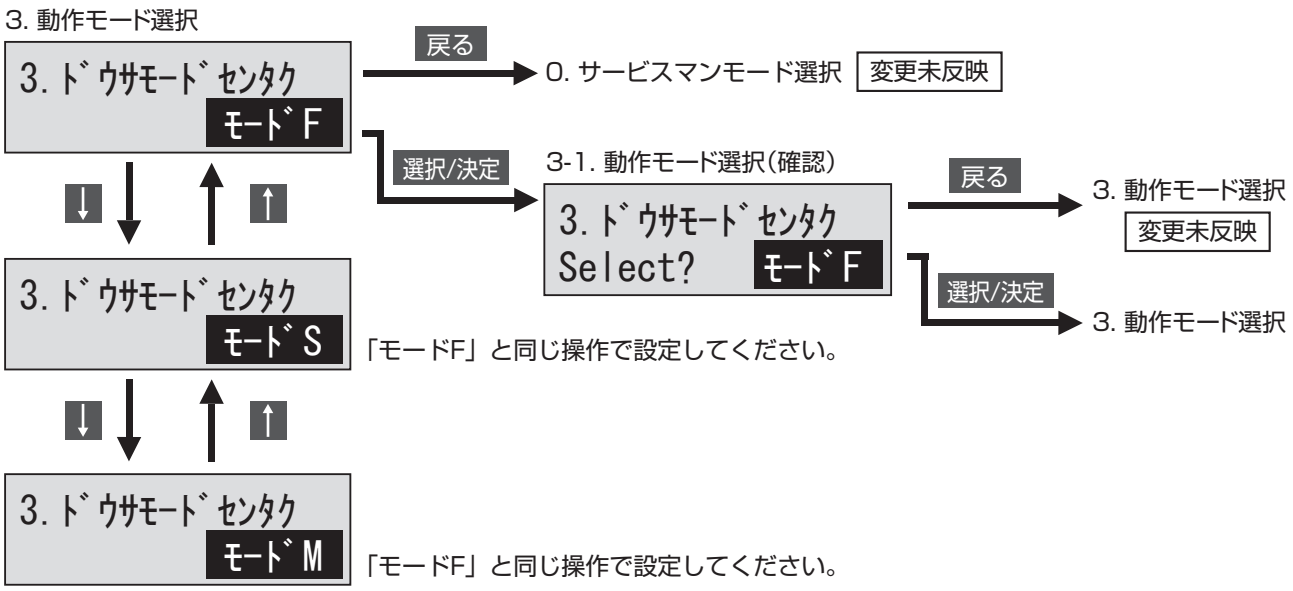


※BAT2をONにしないでください。

積算電力量確認



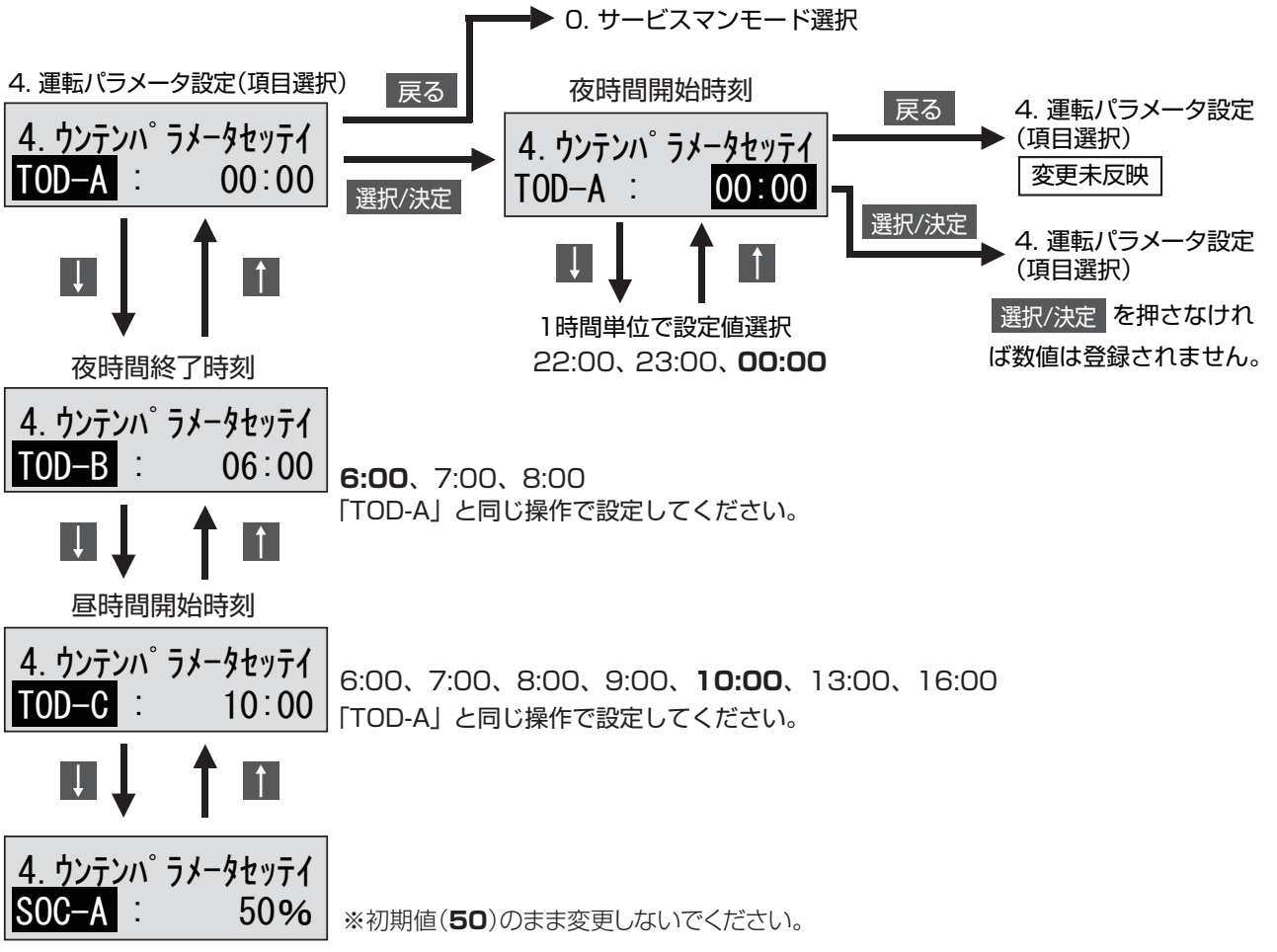
動作モード選択



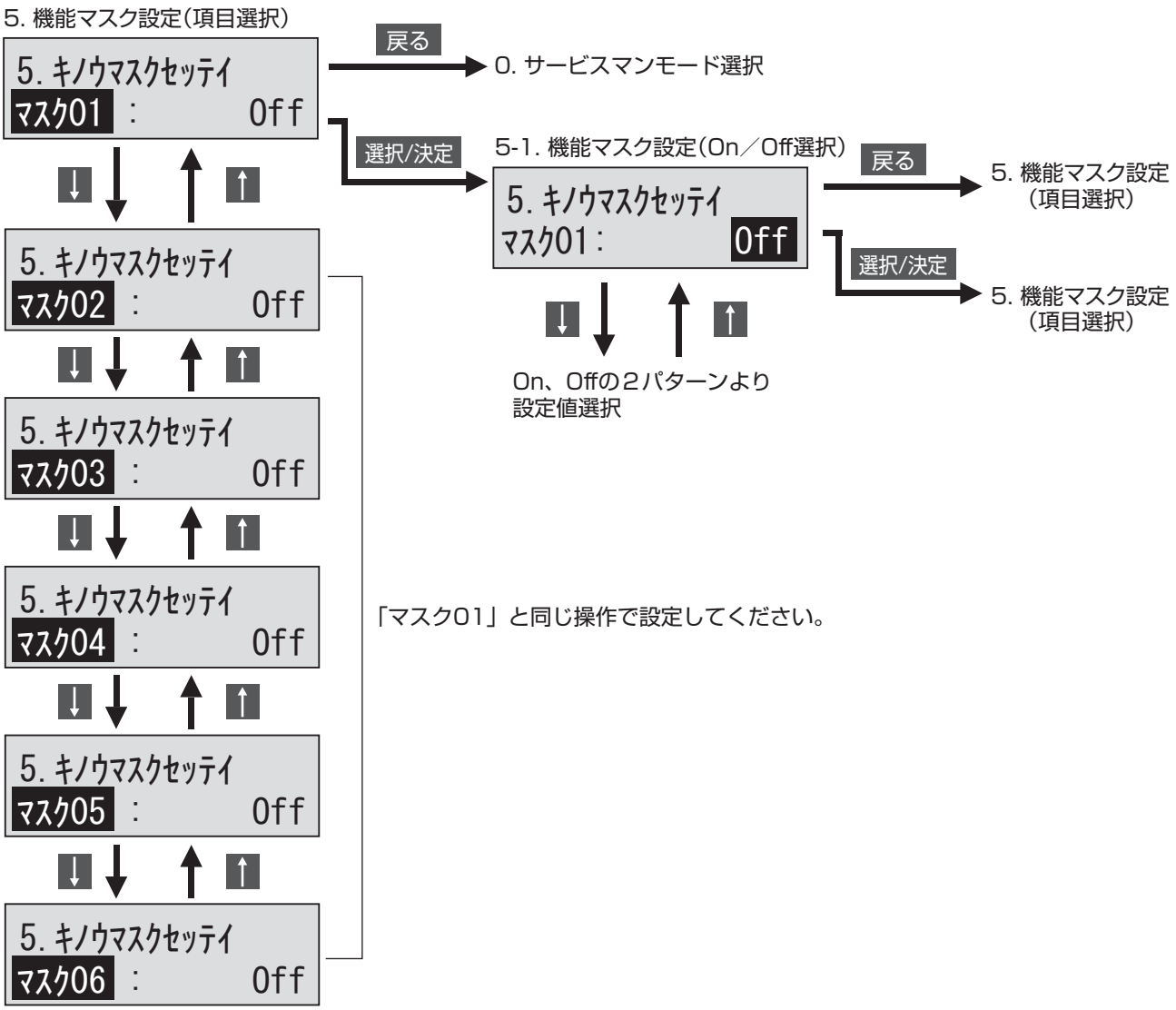
モードF：蓄電優先モード設定
モードS：環境優先モード設定
モードM：経済優先モード設定

※「ワイヤレスモニタ」「モニタリングアダプタ」接続時には、
必ずモニターより動作モードを設定してください。

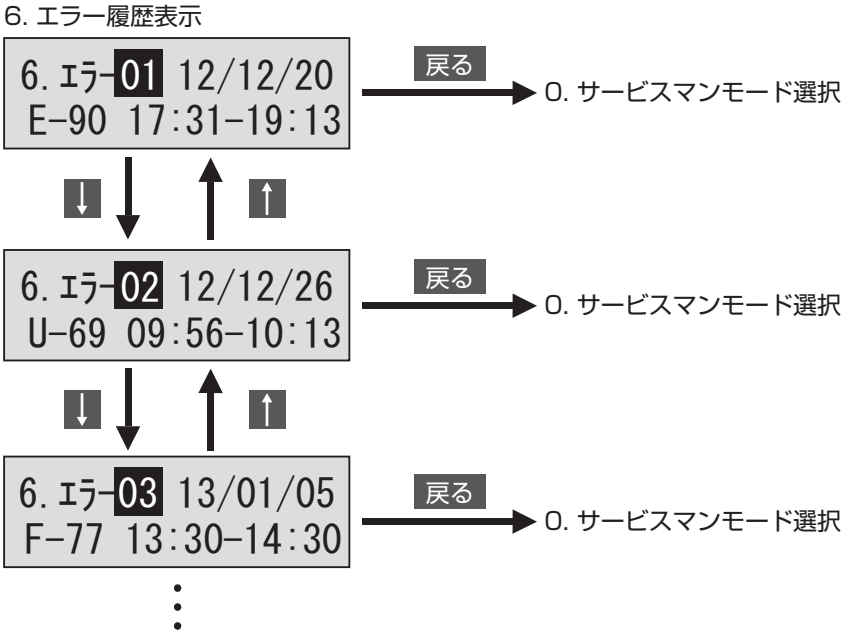
運転パラメータ設定



機能マスク設定



エラー履歴表示



●エラー履歴の数は64件まで表示します。64件を超えると、古い履歴から順に削除されます。

ソフトバージョン表示

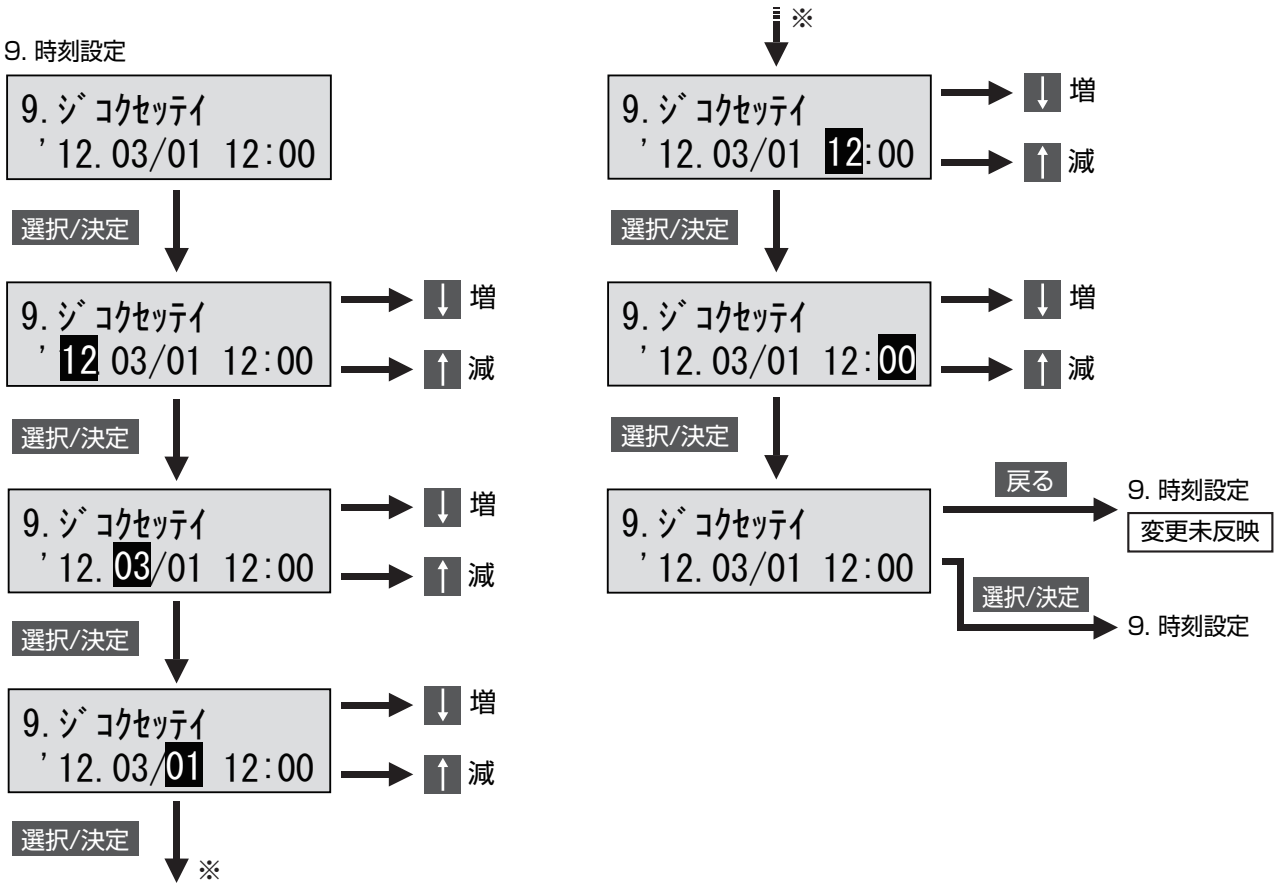
7. ソフトバージョン表示

機器ID表示

8. 機器ID表示

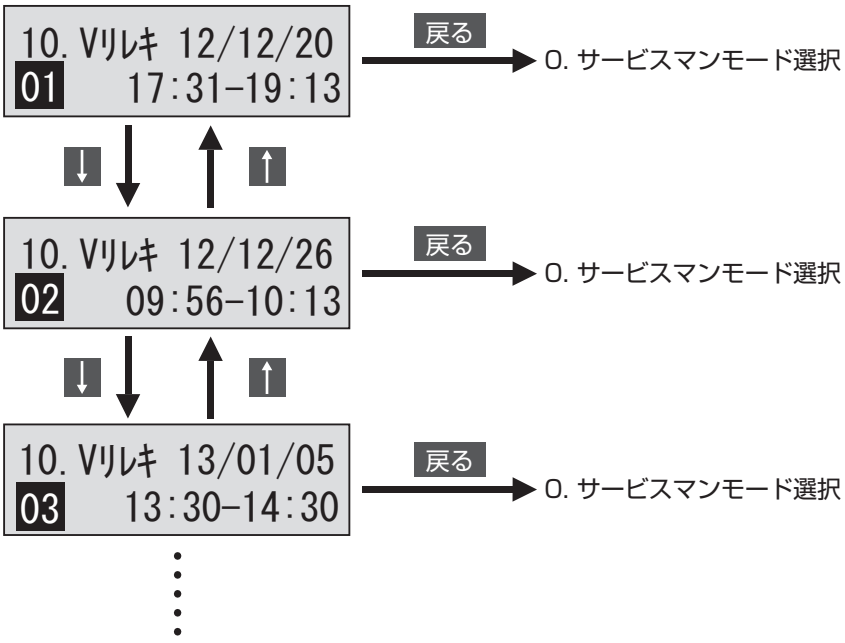
時刻設定

9. 時刻設定



電圧抑制履歴表示

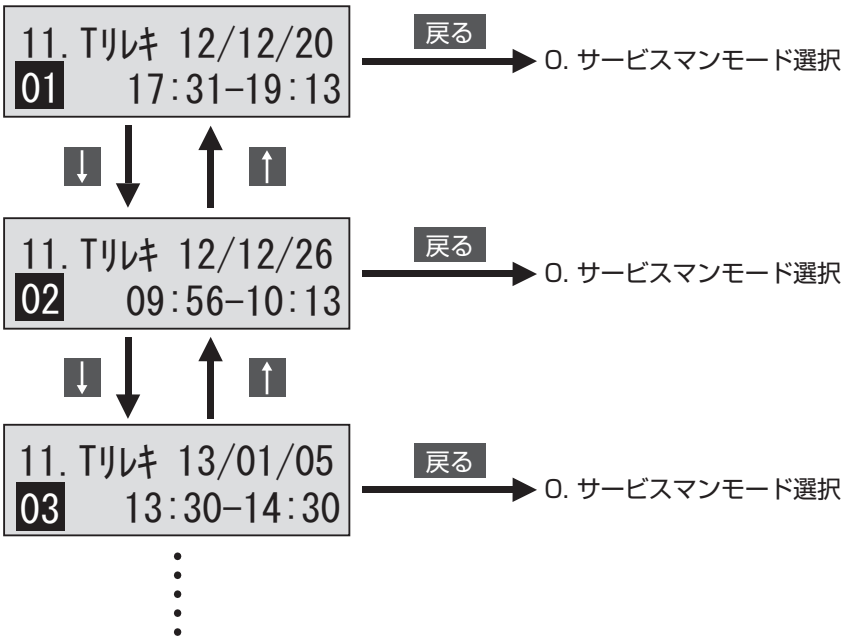
10. 電圧抑制履歴表示



●電圧抑制履歴の数は32件まで表示します。
32件を超えると、古い履歴から順に削除されます。

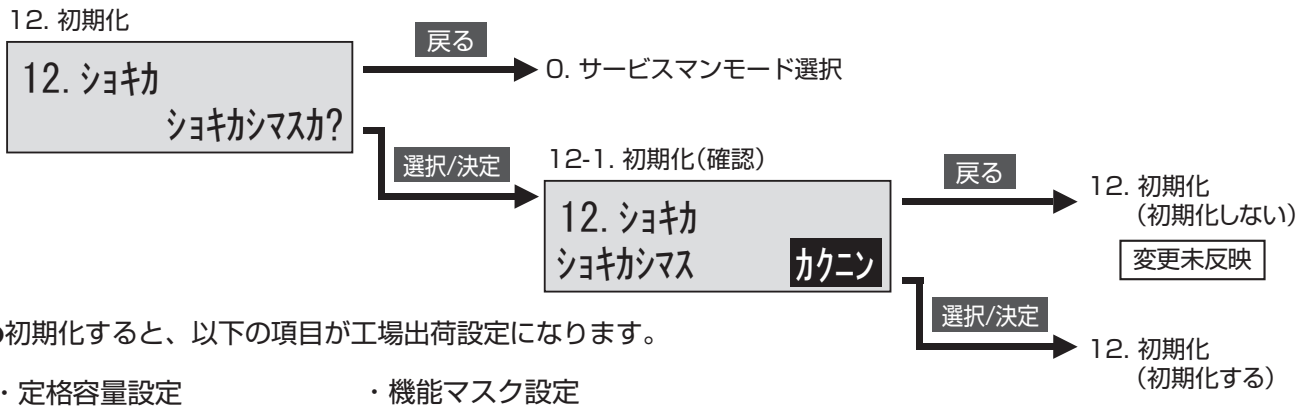
温度抑制履歴表示

11. 温度抑制履歴表示



●温度抑制履歴の数は32件まで表示します。
32件を超えると、古い履歴から順に削除されます。

初期化



●初期化すると、以下の項目が工場出荷設定になります。

- 定格容量設定
- 積算電力量表示
- 動作モード選択
- 運転パラメータ設定
- 整定値
- 機能マスク設定
- エラー履歴表示
- 電圧抑制履歴表示
- 温度抑制履歴表示

トラブル確認

エラーメッセージ（対処方法）	エラーコード
パワーコンディショナ内部の異常を検知しました。 修理窓口へご連絡ください。	F-77 ～ F-99
パワーコンディショナ内部の異常を検知しました。 ５分が経過してもこの表示が消えない場合は修理窓口へご連絡ください。	U-69 ～ U-75 U-79 ～ U-99
自立運転用コンセントに接続した機器の消費電力が出力可能な電力より大きくなっています。 使用している機器を減らして消費電力をさげてください。	P-60 ～ P-62
パワーコンディショナ内部の異常を検知しました。 5分が経過してもこの表示が消えない場合は修理窓口へご連絡ください。	P-63 ～ P-64 P-66 ～ P-72 P-82 ～ P-87
パワーコンディショナの温度が高くなっています。 周囲の確認をお願いします。 対処してもこの表示が消えない場合は修理窓口へご連絡ください。	P-65 P-88 ～ P-99
日射不足です。 発電が回復するまでしばらくお待ちください。	P-73、P-75
太陽電池の出力電圧が高くなっています。 しばらく経ってもこの表示が消えない場合は修理窓口へご連絡ください。	P-74 P-76 ～ P-81
商用電源の異常を検知しました。 正常に戻ってから約5分で運転を再開します。 10分が経過してもこの表示が消えない場合は修理窓口へご連絡ください。	E-90 ～ E-99

仕様

項目		値
蓄電池入出力	定格入出力電圧	DC86.4 V
	入力数	1入力
	定格入出力容量	充電時：1.5 kW　　放電時：2.0 kW
	最大入出力電流	充電時：16.5 A　　放電時：26.0 A
太陽光入力	入力可能電圧範囲	DC0～450 V
	入力電圧範囲	DC80～420 V
	最大許容入力電圧	DC450 V
	入力数	3入力
	1回路入力あたりの入力電圧に対する入力電力範囲	DC80～250 V：653～2000 W DC250～420 V：2000 W
系統連系入出力	定格出力電圧	202 V
	電気方式	単相2線
	接続方式	単相3線
	入力電圧範囲	AC170 V～AC238 V
	定格出力容量	5.5 kW
	定格周波数	50 Hz／60 Hz（自動判別）
	定格電力変換効率	92 %（定格出力時）
	出力基本波力率	0.95以上
	高調波電流歪率	総合5 %以下、各次3 %以下
自立出力	定格出力電圧	AC101±5 V
	電気方式	単相2線
	定格周波数	50 Hz±1%／60 Hz±1%
	定格出力電力	2.0 kVA
運転音		45 dB以下（周囲温度40 ℃連続運転）
使用周囲温度		−20～40 ℃
使用周囲湿度		90 %以下（結露なきこと）
質量		約84 kg（本体：約67 kg、ベース：約17 kg）
寸法		幅630 mm×高さ1600 mm×奥行250 mm（固定用金具は除く）

※上記仕様は規定の試験条件により計測しています。

パナソニック株式会社
パナソニック エコソリューションズ電路株式会社
〒571- 8686 大阪府門真市大字門真1048番地　　TEL（代表）06-6908-1131
© Panasonic Corporation 2012
8A3 F38 0000 5
DC0312-7092